

作業療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	社会福祉概論	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	姫野 建二 先生		一般			

教育目標	<p>1.現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、又、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題について理解する。</p> <p>2.福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。)や福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策を含む。)の関係、又、相談援助活動と扶養政策との関係について理解する。</p> <p>3.「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。</p>
------	--

回	主題	内容
第1回	人間理解と尊厳の保持・自立支援	人間の多面的理解、人間の尊厳、自立・自律他理解し、権利擁護・アドボカシー、人権尊重、身体的・精神的・社会的な自立支援他の理解する
第2回	福祉制度・政策の概念と理念について	福祉制度及び福祉政策の概念と理念について具体的に理解する
第3回	福祉制度と福祉政策の関係	福祉制度と福祉政策の関係について具体的理解する
第4回	前近代社会と福祉	救貧法、慈善事業、博愛事業について理解すると共に相互扶助・その他について具体的に理解する
第5回	近代社会と福祉	第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉・その他について具体的に理解する
第6回	現代社会と福祉	新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化について理解すると共にリスク社会、福祉多元主義・その他についても理解する
第7回	需要とニーズの概念及び資源の概念	需要の定義、ニーズの定義、その他について理解し、資源の定義・その他について具体的に理解する
第8回	福祉政策と社会問題	貧困、失業、要援護一児童、高齢、障害、寡婦について理解し、偏見と差別、社会的排除、バルネラビリティ、リスク・その他について具体的に理解
第9回	福祉政策の現代的課題と国際的動向	福祉政策の現代的課題について社会的包摂、社会連帯、セーフティネット・その他について具体的に理解する
第10回	福祉政策の論点	効率性と公平性、必要と資源、普遍主義と選別主義、自律と依存について又、自己選択とパターナリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、福祉政策の視座・その他を理解する
第11回	福祉政策における政府・市場・国民の役割について	福祉政策における政府及び市場並びに国民の役割について理解する
第12回	福祉供給部門・供給過程・利用過程	政府部門、民間一営利・非営利部門、ボランティア部門、インフォーマル部門、その他を理解する、公私一民関係、再分配、割当、行財政、計画・その他について理解する、スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップ・その他について理解する
第13回	福祉政策と教育・住宅・労働政策について	福祉政策と教育政策・住宅政策・労働政策について具体的に理解する
第14回	福祉供給の政策過程と実施過程	福祉供給の政策過程と実施過程について理解する
第15回	全体のまとめ	全体のまとめとして総括を実施する

評価方法	授業態度(10%)、出席状況(10%)、発表参加(10%)、レポート(10%)、定期試験(60%)等から総合的に判断し、6割以上の成績を以って合格とする。
教科書	・「現代社会と福祉 最新版」中央法規
参考書	・「最新版 版厚生労働白書」発売：全国官報販売協同組合 ・「社会福祉六法 最新版」ミネルヴァ書房 ・社会保障の手引き 最新版 中央法規

作業療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	心理学		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	石川貴史	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を通して人間の心をとらえる基礎となる考え方や視点について伝える。			

教育目標	国家試験に必要なとなる知識の習得を図る。 心理学的基礎知識を基に2年次の精神医学に繋がる知識、考え方を身に付ける。
------	--

回	主題	内容
第1回	心理学とは	なぜ心理学を学ぶのか？リハビリテーションに活かす臨床心理学
第2回	精神分析①	精神分析における理論
第3回	精神分析②	精神分析における理論
第4回	防衛機制①	防衛機制について
第5回	防衛機制②	防衛機制について、障害受容について
第6回	心理的問題①	乳幼児期、児童期における心理的問題
第7回	心理的問題②	思春期、青年期における心理的問題
第8回	心理的問題③	中年期、老年期における心理的問題
第9回	心理療法、理論モデル①	臨床心理学の介入方法(行動的)
第10回	心理療法、理論モデル②	臨床心理学の介入方法(内面的)
第11回	心理療法、理論モデル③	臨床心理学の介入方法(相談的)
第12回	心理検査①	人格検査
第13回	心理検査②	発達検査、知能検査
第14回	心理検査③	神経心理学的検査
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	定期試験で60%以上を合格とする。また、小テスト20%、定期試験80%で総合点を算出する。
教科書	はじめての講義 リハビリテーションのための臨床心理学
参考書	作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業学 第3版 リハベーシック 心理学・臨床心理学

作業療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	社会性向上セミナーⅠ		授業形態	講義	使用教室	講堂・OT1
講師	久保 与広	一般				

教育目標	① 医療人としての意識を高め、素地を育む ② 医療人としての必要な広い社会性を身に付ける ③ 職業の素晴らしさを知り、『理学療法士・作業療法士になる』という動機付けを高める ④ 講義を通して自身の考えをまとめ、人へ伝える力を身に付ける
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	
第2回	テーマ：「誠実な医療人として必要な姿勢について」	
第3回		
第4回	テーマ：「相手の立場に立って考える」	
第5回		
第6回	テーマ：「理学療法士・作業療法士になるために、学院生活で実践していくこと」	
第7回		
第8回	テーマ：「これからのPT、OTに求められること～リハビリの現状と今後～」 ※ 接遇・身だしなみも含めて	
第9回	テーマ：「リハビリテーションにおける作業療法とは」	
第10回		
第11回	テーマ：「リハビリテーションにおける理学療法とは」	
第12回		
第13回		
第14回	テーマ：「理学療法士・作業療法士の魅力について」	
第15回	総括	

評価方法	出席状況、授業態度、レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする
教科書	なし
参考書	なし

作業療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	情報処理	授業の形態	講義		使用教室	OT1
担当講師	古賀 浩二 先生		一般			

教育目標	<p>OPCの簡単な操作ができること</p> <p>OMS-Wordを用いて簡単な文書を作成し印刷できること、また、Excelを用いて簡単な表が作成できること</p>
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、コンピュータハードウェアとは
第2回	コンピュータの基本	コンピュータハードウェアの種類と役割
第3回	コンピュータの基本	ソフトウェアの種類と役割
第4回	PC操作の基本	MS-Windowsによるデータ管理、プログラム管理。OSの操作方法 (OSWindowsを操作する)
第5回	文字列の入力	OSの操作方法(つづき) 文字変換を伴う日本語入力(連文節変換)、入力演習
第6回	MSWORDの基本 (概要)	MS-Wordの基本(書式設定の範囲、段落の概念とページ設定の練習) 日本語入力演習、文字列複写・移動・削除
第7回	MSWORDの基本 (ページ・段落のレイアウト)	ページ設定(おさらい) ビジネスレターの作成(段落レイアウト設定 行内配置)
第8回	MSWORDの基本 (段落レイアウト)	ビジネスレターの作成(段落レイアウト設定 ルーラ、タブ、箇条書きの利用)
第9回	MSWORDの基本 (段落レイアウト)	ビジネスレターの作成(段落レイアウト設定 つづき) 練習問題を使った書式設定のまとめ
第10回	MSWORDの基本 (図の利用)	練習問題を使った図の作成(オートシェープ)
第11回	MSWORDの基本 (表の利用)	図、及び表を含む文書の作成
第12回	MS-Excelの概要	エクセルの機能、画面説明、文書構造、入力データ
第13回	MS-Excelの基本	エクセルで利用する数式とは Excelのキーボード操作、マウス操作
第14回	MS-Excelの基本	練習問題を使った表の作成(データの入力)
第15回	MS-Excelの基本 まとめ	練習問題を使った表の書式設定 全体を通したまとめ

評価方法	出席並びに受講態度、および、授業中に課す課題の内容と提出状況、期末テストの結果60点以上を合格とする。
教科書	30時間でマスター Windows10対応 Word & Excel 2021
参考書	

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	医学英語	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚
講師	小池 知英				一般	

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践に必要な英文法を理解する。</li> <li>・副教材を通じて英語のリズム、発音などの基礎を学ぶ。</li> <li>・医療現場での簡単なコミュニケーションの基礎を作る。</li> </ul>
------	--

回	主題	内容
第1回	ガイダンス	現在までの自分の英語学習を振り返り、今後の方針、目標を具体的に考える。次週からの単語テスト資料配布。副教材の解説。
第2回	英文法基本① 8品詞・文とその構成要素	授業内容：単語テスト①、主題項目の解説、副教材個別指導。 HW：授業内容の復習、暗記。単語テスト及び副教材暗誦の準備。
第3回	英文法基本② 文型と文の種類・句と節（講義）	授業内容：単語テスト②、主題項目の解説、副教材個別指導。 HW：授業内容の復習、暗記。単語テスト及び副教材暗誦の準備。
第4回	Lesson 1	授業内容：単語テスト③、Lesson 1解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 1復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第5回	Lesson 2	授業内容：単語テスト④、Lesson 2解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 2復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第6回	Lesson 3	授業内容：単語テスト⑤、Lesson 3解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 3復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第7回	Lesson 4	授業内容：単語テスト⑥、Lesson 4解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 4復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第8回	Lesson 5	授業内容：単語テスト⑦、Lesson 5解説、問題演習。副教材個別指導 HW：ミニテストを視野に入れたLesson1-5復習。単語テスト及び副教
第9回	Mini Test	授業内容：単語テスト⑧、Mini Test。副教材個別指導 HW：単語テスト及び副教材暗誦の準備
第10回	Lesson 6	授業内容：単語テスト⑨、Lesson 6解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 6復習。単語テスト及び副教材暗誦準備
第11回	Lesson 7	授業内容：単語テスト⑩、Lesson 7解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 7復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第12回	Lesson 8	授業内容：単語テスト⑪、Lesson 8解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 8復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第13回	Lesson 9	授業内容：単語テスト⑫、Lesson 9解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 9復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第14回	Lesson 10	授業内容：単語テスト⑬、Lesson 10解説、問題演習。副教材個別指導 HW：Lesson 10復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備
第15回	Lesson 11	授業内容：単語テスト⑭、Lesson 11解説、問題演習。副教材個別指導 HW：期末試験までLesson 6-11復習。単語テスト及び副教材暗誦の準備

評価方法	副教材達成度(20%)、単語テスト実績(10%)、ミニテスト(30%)と前期試験(40%)の比率で評価し、60点以上を合格とする。
教科書	PT・OTが書いたリハビリテーション英会話 / 授業時配布される演習教材(オンラインで配布)
参考書	英文法ビフォーアフター

作業療法学科	1学年	前期	単位数	2単位	時間数	45時間
科目名	運動系統学 I		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	石田 恭涼	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、運動器疾患の作業療法で学んだ解剖学知識を活用し指導している。			

教育目標	理学療法士・作業療法士の基礎となる解剖・生理学を骨、関節、靭帯、筋を系統立てて運動器として理解する。①身体部位の名称を覚える。②骨・関節・筋の名称を覚える。③関節の形態より運動を理解する。④筋の走行と作用を理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	生体の構造と機能	解剖学・生理学・運動学の関係/解剖学的用語
第2回	肢位・姿勢	身体運動の面と軸、構えと体位
第3回	骨総論	骨の形態・構造
第4回	関節総論	骨の連結/関節の構造と機能
第5回	筋の総論	骨格筋の作用/骨格筋の支配神経・筋の呼称
第6回	骨：上肢	肩甲帯・鎖骨・上腕骨
第7回	関節：上肢の連結	肩関節(肩甲上腕関節・胸鎖関節・肩鎖関節)
第8回	関節：上肢の連結	肩関節(肩甲胸郭関節・第2肩関節)
第9回	筋：上肢	肩関節の筋
第10回	筋：上肢	肩関節の筋
第11回	筋：上肢	上肢帯の筋
第12回	筋：上肢	上肢帯の筋
第13回	骨・関節：上肢	尺骨・橈骨・手根骨・手指、肘関節(外反肘)
第14回	筋：上肢	肘関節の筋
第15回	筋：上肢	肘関節の筋、上腕の断層解剖
第16回	筋：上肢	前腕の筋
第17回	筋：上肢	前腕の筋、前腕の断層解剖
第18回	関節：上肢の連結	手関節(手根管)、手指の関節
第19回	関節：上肢の連結	手関節(手根管)、手指の関節
第20回	筋：上肢	手内在筋、まとめ
第21回	関節：上肢の連結	上肢の関節の運動(凹凸の法則、てこ)
第22回	骨・関節(上肢)	骨の発生/骨の代謝(リモデリング)
第23回	まとめ	まとめ

評価方法	小テスト2割・定期試験8割の筆記試験の結果、総合的に60%以上の得点を合格とします。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 『解剖学(第5版)』 野村 嶺 編 医学書院 『基礎運動学(第6版 補訂)』 中村隆一、齊藤 宏、長崎 浩 著 医歯薬出版 プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版、坂井建雄、医学書院
参考書	国試の達人 2022 運動解剖生理学編

作業療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動系統学Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	PT1
講師	石堂 優太	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、運動器疾患の理学療法で学んだ解剖学知識を活用し指導している。			

教育目標	理学療法士・作業療法士の基礎となる解剖・生理学を骨、関節、靭帯、筋を系統立てて運動器として理解する。 ①身体部位の名称を覚える。②骨・関節・筋の名称を覚える。③関節の形態より運動を理解する。④筋の走行と作用を理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	前期の復習	骨、関節、筋について
第2回	骨:下肢帯	寛骨(腸骨・坐骨・恥骨)、仙骨
第3回	関節:下肢帯	恥骨結合・仙腸関節、骨盤
第4回	骨:自由下肢帯	大腿骨(頸体角、前捻角)/膝蓋骨
第5回	関節:自由下肢骨	股関節・靭帯・運動
第6回	筋:下肢	骨盤・股関節に付着する単関節筋
第7回	筋:下肢	骨盤・股関節に付着する単関節筋
第8回	下肢の運動	まとめ
第9回	骨:自由下肢帯	脛骨・腓骨
第10回	関節:自由下肢骨	膝関節・靭帯・半月板・運動/荷重軸・FTA
第11回	筋:下肢	股関節・膝関節に作用する二関節筋
第12回	筋:下肢	股関節・膝関節に作用する二関節筋
第13回	骨:自由下肢帯	足根骨・中足骨・指節骨
第14回	関節:自由下肢骨	脛骨・腓骨の連結/距腿関節/足部の関節
第15回	筋:下肢	足関節の筋、足の内在筋
第16回	下肢の運動	まとめ
第17回	骨:脊柱・胸郭	頸椎・胸椎骨・腰椎
第18回	骨:脊柱・胸郭	胸骨・肋骨
第19回	関節:脊柱・胸郭	椎体・椎間関節/肋椎関節/胸肋関節/靭帯
第20回	筋:体幹	体幹の筋(腹筋群・背筋群)
第21回	筋:体幹	体幹の筋(呼吸筋)
第22回	骨・骨頭	頭蓋骨/顎関節
第23回	筋:頸部・顔面	頸部の筋/表情筋、咀嚼筋/まとめ

評価方法	2/3以上の出席を前提とする。 小テスト2割・前期試験8割の筆記試験の結果、総合的に6割以上の得点を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 『解剖学(第5版)』野村 巖 編 医学書院 『基礎運動学(第6版 補訂)』中村隆一、齊藤 宏、長崎 浩 著 医歯薬出版 プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版、坂井建雄、医学書院
参考書	なし

作業療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経系統学Ⅰ		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	綾部雅章	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	① 神経系の各部の構成について学び説明できる ② 神経系の各部の機能について学び説明できる
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	神経系総論(1)	神経系の区分、神経系の構成<神経組織、興奮と伝導>
第3回	神経系総論(2)	神経系の構成<シナプス伝達、神経伝達物質>
第4回	神経系総論(3)	神経系の構成<中枢神経系の構成>
第5回	神経系総論(4)	神経系の構成<末梢神経系の構成>
第6回	神経系総論(5)	髄膜と脳室系、神経系の発生
第7回	神経系総論	神経総論まとめ
第8回	中枢神経系(1)	大脳<終脳~大脳半球の表面と区分~>
第9回	中枢神経系(2)	大脳<終脳~大脳皮質の機能局在~>
第10回	中枢神経系(3)	大脳<終脳~大脳辺縁系~>
第11回	中枢神経系(4)	大脳<終脳~大脳基底核~>
第12回	中枢神経系(5)	大脳<終脳~大脳皮質と髄質~>
第13回	中枢神経系(6)	大脳<終脳~大脳皮質と髄質~>
第14回	中枢神経系(7)	間脳①<視床>
第15回	中枢神経系(8)	間脳②<視床下部>
第16回	中枢神経系	大脳まとめ
第17回	中枢神経系(9)	脳幹①<中脳>
第18回	中枢神経系(10)	脳幹②<橋>
第19回	中枢神経系(11)	脳幹③<延髄>
第20回	中枢神経系(12)	小脳
第21回	中枢神経系(13)	小脳
第22回	人体の発生	胚子の発生、器官系の発生
第23回	講義のまとめ	前期まとめ

評価方法	小テスト1割、定期試験9割とし、総合で6割以上を合格とする
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考教材	・人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版 改訂第2版、日本医事新報社 ・医学映像教育センター ビジュアルクラウド 目で見える解剖と生理 第2版 神経系Ⅰ /目で見える医学の基礎 第2版 神経系



作業療法学科	1学年	後期	単位数	2単位	時間数	45時間
科目名	神経系統学Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	久保与広	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その実務経験を授業に反映させている			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経系の各部の構成について学び説明できる</li> <li>・神経系の各部の機能について学び説明できる</li> <li>・神経系の構造と機能を学び、疾患や理学療法、作業療法との関連を理解する</li> </ul>
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 中枢神経系(15)	オリエンテーション 脊髄①<脊髄の構造①>
第2回	中枢神経系(16)	脊髄②<脊髄の構造②>
第3回	中枢神経系(17)	脊髄の復習
第4回	中枢神経系(18)	神経路①<上行性神経路①>
第5回	中枢神経系(19)	神経路②<上行性神経路②>
第6回	中枢神経系(20)	神経路③<下行性神経路>
第7回	中枢神経系(21)	神経路のまとめ
第8回	末梢神経系(1)	脊髄神経① <脊髄と脊髄神経、ベル・マジャンディーの法則、皮節>
第9回	末梢神経系(2)	脊髄神経②<脊髄神経>
第10回	末梢神経系(3)	脊髄神経③<頸神経、頸神経叢>
第11回	末梢神経系(4)	脊髄神経④<腕神経叢>
第12回	末梢神経系(5)	脊髄神経⑤<脊髄神経前半の復習>
第13回	末梢神経系(6)	脊髄神経⑥<胸神経>
第14回	末梢神経系(7)	脊髄神経⑦<腰神経、腰神経叢>
第15回	末梢神経系(8)	脊髄神経⑧<仙骨神経、仙骨神経叢①>
第16回	末梢神経系(9)	脊髄神経⑨<仙骨神経叢②、尾骨神経叢>
第17回	末梢神経系(10)	脊髄神経⑩<脊髄神経後半の復習>
第18回	末梢神経系(11)	脳神経①<脳神経の種類>
第19回	末梢神経系(12)	脳神経②<各脳神経の機能①>
第20回	末梢神経系(13)	脳神経③<各脳神経の機能②>
第21回	末梢神経系(14)	脳神経の復習
第22回	後期のまとめ	まとめ
第23回	後期のまとめ	まとめ②

評価方法	・小テスト(1割)、定期試験(9割)にて総合的に判定し、60点以上を合格とする
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院</li> <li>・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院</li> <li>・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版 改訂第2版、日本医事新報社</li> <li>・日本人体解剖学 改訂19版 上 骨格系・筋系・神経系、南山堂</li> <li>・絵でみる脳と神経～しくみと障害のメカニズム～ 第4版、医学書院</li> <li>・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版、医学書院</li> </ul>

作業療学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	臓器系統学Ⅰ		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	橋山 浩介	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、リハビリ現場で遭遇しやすい臓器関連疾患を知る基礎として学ぶ。			

教育目標	内臓器の解剖学的特徴の基本を知る。 内臓器の生理学的作用の基本を知る。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	臓器系統学とは
第2回	人体の構成と基本的生理機能	総論
第3回	人体の構成と基本的生理機能	ホメオスタシス
第4回	人体の構成と基本的生理機能	細胞
第5回	人体の構成と基本的生理機能	組織
第6回	人体の構成と基本的生理機能	器官
第7回	内臓器官の基本構造	中空性器官
第8回	内臓器官の基本構造	中空性器官
第9回	消化器系	総論
第10回	消化器系	口腔・咽頭・食道
第11回	消化器系	口腔・咽頭・食道
第12回	消化器系	胃・小腸・大腸
第13回	消化器系	胃・小腸・大腸
第14回	消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓
第15回	消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓
第16回	血液	赤血球・白血球・血小板・血漿
第17回	血液	赤血球・白血球・血小板・血漿
第18回	循環器系	循環器系：血管・心臓の解剖
第19回	循環器系	循環器系：血管・心臓の解剖
第20回	循環器系	循環器系：血管・心臓の解剖
第21回	循環器系	循環器系：血管・心臓の解剖
第22回	循環器系	心電図・心臓循環
第23回	循環器系	心電図・心臓循環

評価方法	小テスト(1割)、定期試験(9割)にて判定し、総合6割以上を合格とする
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版. 医学書院. 著 野村巖 シンプル生理学 改訂第8版. 南江堂. 共著 貴邑富久子、根来英雄
参考書	理解しやすい生物 生物基礎収録版. 文英堂. 著 水野丈夫、浅島誠 標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版. 医学書院. 著 石澤光郎、富永淳

作業療法学科	1学年	後期	単位数	2単位	時間数	45時間
科目名	臓器系統学Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	田才 葵	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	①内臓器の解剖学的特徴や基本的な生理学的作用を理解し、2年次の生理学的作用の理解に繋げる。 ②各臓器の特徴や作用を学ぶことで疾患との繋がりを考える機会となる。 ③理学療法士・作業療法士の国家資格に必要な知識を習得する。
------	---

回	主題	内容
第1回	呼吸器	呼吸器とは(構成要素・役割) 外呼吸と内呼吸
第2回	呼吸器	呼吸器系:上気道・下気道の解剖
第3回	呼吸器	呼吸器系:下気道の解剖・肺胞の解剖と基本的機能
第4回	呼吸器	呼吸器系:肺の解剖
第5回	呼吸器	呼吸器系:肺の解剖、胸郭について
第6回	呼吸器	小テスト①(第1～5回の範囲) 呼吸運動(呼息と吸息とは、呼吸筋について)
第7回	呼吸器	呼吸運動(運動の仕組み、肺機能検査:スパイロメーター)
第8回	呼吸器	呼吸運動(努力肺活量・1秒率、閉塞性・拘束性換気障害)
第9回	泌尿器	小テスト②(第6～8回の範囲) 泌尿器とは(構成要素・役割)
第10回	泌尿器	泌尿器系:腎臓の解剖
第11回	泌尿器	泌尿器系:腎臓の解剖
第12回	泌尿器	泌尿器系:尿管・膀胱・尿道の解剖
第13回	泌尿器	小テスト③(第9～12回の範囲) 泌尿器系:腎臓の機能
第14回	泌尿器	泌尿器系:腎臓の機能
第15回	泌尿器	泌尿器系:腎臓の機能
第16回	泌尿器	泌尿器系:腎臓の機能
第17回	泌尿器	小テスト④(第13～16回の範囲) 循環器系との関わり(血圧と再吸収の関わり)
第18回	泌尿器	呼吸器系との関わり(酸塩基平衡:呼吸性・代謝性調節)
第19回	循環器	全身循環(全身の血管系:動脈・静脈)
第20回	循環器	全身循環(全身の血管系:動脈・静脈)、胎児循環
第21回	代謝・内分泌	小テスト⑤(第19・20回の範囲) 同化と異化 内呼吸とミトコンドリア 代謝とは
第22回	代謝・内分泌	代謝とは 体温調節 ホルモンとは(特徴)
第23回	代謝・内分泌	ホルモンとは(分泌場所と作用)

評価方法	定期試験(9割)、小テスト(1割)にて総合的に判定し、6割以上を履修の基準とする。ただし、定期試験については60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版. 医学書院. 著 野村嶺 シンプル生理学 改訂第8版. 南江堂. 共著 貴邑富久子、根来英雄
参考書	国試の達人(運動解剖生理学編) 病気がみえる<Vol.2> 第5版 循環器. メディックメディア. 医療情報科研究所 病気がみえる<Vol.4> 第3版 呼吸器. メディックメディア. 医療情報科研究所

作業療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30時間
科目名	病理学		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	大坪健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	総論においては、疾病の原因とその成り立ちを理解する。 生命維持及び活動エネルギーに必須の栄養学の必要性を理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション/病因論	病理学とは
第2回	退行性病変	変性・萎縮・壊死
第3回	進行性病変	肥大・過形成・化生・異形成・再生
第4回	代謝異常	糖質代謝異常、脂質代謝異常
第5回	循環障害	局所の循環障害
第6回	循環障害	全身の循環障害
第7回	免疫	自然免疫・獲得免疫
第8回	免疫	アレルギーと移植
第9回	炎症・感染症	急性炎症と慢性炎症
第10回	炎症・感染症	感染症
第11回	腫瘍	良性腫瘍・悪性腫瘍
第12回	老化	加齢による生理的老化
第13回	循環器	虚血性心疾患/動脈硬化他
第14回	呼吸器	閉塞性/拘束性肺疾患他
第15回	講義のまとめ	講義のまとめ

評価方法	受講状況、定期試験(75%)と小テスト(25%)の結果を総合的に判定し60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 病理学 第5版(監修)横井豊治 医学書院
参考書	(動画教材) VISUAL LEARN

作業療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	リハビリテーション概論		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	大坪 健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	リハビリテーション職種の職域や業種の特徴を知り、医療専門職の資格修得に向けての見識を学ぶ。 4年間での学習を大枠を理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介/マインドマップによる知識及び意識の確認
第2回	国家資格とは	仕事とは/理学療法士及び作業療法士になるために/国家試験概要
第3回	リハビリテーションとは	医療・保健・社会福祉とリハビリテーション (A-1/A-2/A-3)
第4回	チーム医療	チームの要、リハビリテーション科医 (A-8)/ 必要不可欠なリハビリテーション看護 (A-12)
第5回	チーム医療	必要不可欠なリハビリテーション看護 (A-12)/ わたし達の大切な医療チーム (A-13)
第6回	医療・社会福祉と法律	医療・社会福祉と法律 (A-22)
第7回	医療・社会福祉と法律	医療・社会福祉と法律 (A-22)/ 地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム (A-23)
第8回	疾病と障害の関係	疾患と障害の関係(国際障害分類と国際生活機能分類) (A-7)
第9回	廃用症候群	廃用症候群はとっても怖い(A-4)
第10回	廃用症候群	廃用症候群はとっても怖い(A-4)
第11回	リスク管理	医療の安全性/感染対策
第12回	理学・作業の進め方	理学・作業療法の実際
第13回	機能評価と能力評価	機能評価なしに機能訓練を始められない (A-14)/ 機能障害にはどんな評価方法があるの？ (A-15)
第14回	機能評価と能力評価	能力低下の評価方法を習得しよう (A-16)
第15回	講義のまとめ	前期講義のまとめ

評価方法	受講状況及び定期試験の成績より、100点満点で60点以上を合格とする。
教科書	「リハビリテーション総論」改定第4版 椿原彰夫編 診断と治療社
参考教材	動画教材 ビジュランクラウド(医学映像教育センター)

作業療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	リハビリテーション医学		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	大坪 健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	リハビリテーションに関する疾患や病態、それらに対応する実際の概要を理解する。 4年間での学習の大枠を理解する。
------	--

回	主題	内容
第1回	車いす関連	様々な種類の車椅子
第2回	歩行と異常歩行	歩行/異常歩行と歩行訓練
第3回	義肢装具	装具は障害者の必需品/義足でも走れる/四肢切断
第4回	関節可動域	関節拘縮と関節可動域訓練
第5回	筋力・筋力増強	筋力低下と筋力増強訓練
第6回	運動麻痺	運動麻痺とニューロリハビリテーション
第7回	高次脳機能障害	失語症と言語聴覚療法/失認と失行
第8回	老化と介護予防	老化と介護予防
第9回	脳血管障害①	脳血管障害の分類と病態
第10回	脳血管障害②	リハビリテーションの目的
第11回	神経筋疾患①	パーキンソン症候群/脊髄小脳変性
第12回	神経筋疾患②	神経・筋疾患
第13回	脊髄損傷	脊髄損傷
第14回	運動器疾患	運動器疾患/関節リウマチ
第15回	講義のまとめ	後期講義のまとめ

評価方法	受講状況及び定期試験の結果で60点以上を合格とする。
教科書	「リハビリテーション総論」改定第4版 椿原彰夫編 診断と治療社
参考教材	動画教材 ビジュランクラウド(医学映像教育センター)

作業療法学科	1学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	作業療法概論 I		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	岡 大樹	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	①作業療法にとっての作業の意味と役割を学び、歴史的な位置づけを知ることが目的とする。 ②作業療法の面白さ、広さ、深さを知り、興味・関心を持って履修する。 ③作業療法領域で扱われる用語について理解する。 ④概論授業を通して学習方法について学ぶ。
------	--

回	主題	内容
第1回	作業療法を学ぶ前に	人間性の尊重, 回復 リハビリテーションの定義と理念
第2回	「作業」とは	作業療法における作業とは 作業の視点
第3回	作業療法序論	文献「パスタを作るというリハビリ」を読んで 用語の理解
第4回	作業療法とは	作業(生活行為)、国内における作業療法の定義
第5回	作業療法士の対象と領域	作業療法の対象、専門領域
第6回	人と作業との関わり	作業とからだ、作業とこころ
第7回	作業療法の歴史	作業療法の誕生、作業療法の源流、道徳療法、アメリカの作業療法)
第8回	作業療法の歴史	日本の作業療法(移動療法、肢体不自由児)
第9回	分野別作業療法について	日本の作業療法(身体障害者のOT、リハ学院)
第10回	分野別作業療法について	各分野の作業療法①
第11回	分野別作業療法について	各分野の作業療法②
第12回	分野別作業療法について	各分野の作業療法③
第13回	分野別作業療法について	各分野の作業療法④
第14回	分野別作業療法について	各分野の作業療法⑤
第15回	総合理解	まとめ

評価方法	課題、定期試験を合わせて総合的に判断し、60点以上で履修を認定する
教科書	シンプル作業療法学シリーズ『作業療法学概論 テキスト』東 登志夫
参考書	『作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論 改訂第3版』長崎 重信

作業療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	作業療法概論Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	OT1
講師	岡 大樹	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	臨床実習について理解し、臨床実習の実情、在り方、目的、必要性について学ぶことで、学生自身が作業療法士となるために主体的に取り組めるために行動変容となること。 3年次、4年次臨床実習に必要な心構えを身に付ける。
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 臨床実習とは	ポートフォリオとは 本校における臨床実習の流れ、「臨床実習」について
第2回	臨床実習とは	臨床実習とは 実習で身に付けるべきもの
第3回	臨床実習とは	実習で身に付けるべきもの(基本的態度について) 「観察」とは、グループ課題
第4回	「観察」とは	「観察」とは グループ課題を通して考える①
第5回	「観察」とは	見やすいプレゼン資料の作り方(スライド作成について) グループ課題を通して考える②
第6回	「観察」とは	グループ課題②の発表
第7回	「CCS」とは	臨床実習における学習方法について①
第8回	「CCS」とは	臨床実習における学習方法について②
第9回	「チェックリスト」とは	OSCEの必要性 実習チェックリストについて
第10回	「臨床的思考」とは	臨床的思考について
第11回	「臨床的思考」とは	臨床的思考(実習報告会) やる気と集中力について①
第12回	やる気と集中力	やる気と集中力について②
第13回	「MTDLP」について	MTDLPとは①
第14回	「MTDLP」について	MTDLPとは②
第15回	まとめ	チームビルディング効果を考える、まとめ

評価方法	課題、取り組み、ポートフォリオ等をもって、総合的に判断し、60点以上で履修を認定する
教科書	シンプル作業療法学シリーズ『作業療法学概論 テキスト』東 登志夫
参考書	作業療法臨床実習のチェックポイント クリニカル・クラークシップのすすめ



作業療法学科	1学年	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
科目名	作業療法概論演習		授業形態	演習	使用教室	治療室2
講師	久保 与広	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、患者様の触り方や身体の基本的な知識を経験を織り交ぜ授業に反映させている			

教育目標	1.身体の基本的な構造を知る。 2.身体を構成する骨を体表から触診技術を身に付ける。 3.基本的な評価を学ぶ上で必要な知識、技術を習得することができる。
------	--

回	主題	内容
第1回	触診の基本	基本的立位肢位解剖学的立位肢位、運動の面と軸、姿勢の表し方、指の当て方
第2回	触診(上肢骨)	肩甲骨、鎖骨
第3回	触診(上肢骨)	上腕骨、前腕骨
第4回	触診(上肢骨)	手根骨、指骨
第5回	触診(上肢筋)	肩甲上腕関節に関わる筋
第6回	触診(上肢筋)	肘関節に関わる筋
第7回	触診(上肢筋)	手関節に関わる筋
第8回	触診(下肢骨)	骨盤、大腿骨
第9回	触診(下肢骨)	膝関節周辺
第10回	触診(下肢骨)	足関節、足部周辺
第11回	触診(下肢筋)	股関節に関わる筋
第12回	触診(下肢筋)	膝関節に関わる筋
第13回	触診(下肢筋)	足関節および足部に関わる筋
第14回	触診まとめ①	骨触診まとめ
第15回	触診まとめ②	筋触診まとめ

評価方法	実技試験4割、定期試験6割とし、総合で6割以上を合格とする。 実技試験・定期試験どちらか一方が6割未満の場合は両者再試験を実施する。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術-上肢- MEDICAL VIEW 運動療法のための機能解剖学的触診技術-下肢・体幹- MEDICAL VIEW
参考書	基礎運動学 第6版 プロメテウス解剖学コアアトラス

作業療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	作業療法評価学 I		授業形態	演習・講義	使用教室	治療室
講師	高山 翔平	実務経験有	作業療法士として医療機関での実務経験があり、その臨床経験を基にかかわり方や評価方法等授業に反映している。			

教育目標	作業療法における基本的な評価について意義目的を知り、実技を習得することができる。。 基本的な介助方法を学ぶことで、身体移動に対する知識を習得する。 生命維持の身体の指標であるバイタルサインの基礎を学び、実施することができる。
------	--

回	主題	内容
第1回	作業療法と評価	授業の目的、流れについて 評価とは
第2回	介助の基礎知識	ヒトの動き、 介助対象者の特性と留意点正常な寝返り動作のメカニズム
第3回	介助の基礎知識	安全な介助の基本的な考え方
第4回	バイタルサイン	バイタルサインの理解、脈拍測定、血圧測定
第5回	バイタルサイン	脈拍測定、血圧測定
第6回	バイタルサイン	パルスオキシメーター
第7回	形態測定①	形態測定について
第8回	形態測定②	形態測定四肢長周径、(前腕周径、下肢長)
第9回	形態測定③	形態測定四肢長周径、(前腕周径、下肢長)
第10回	関節可動域測定①	関節可動域測定(定義・目的、)
第11回	関節可動域測定②	関節可動域測定 肩関節(屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋)
第12回	関節可動域測定③	関節可動域測定 肘関節・前腕・手関節
第13回	関節可動域測定④	関節可動域測定 股関節(屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋)
第14回	関節可動域測定⑤	関節可動域測定 膝関節・足関節
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	実技試験5割、定期試験5割をもって総合的に判断し、60点以上を合格とする。 ただし、実技試験・筆記試験どちらか一方が6割未満の場合、両者再試験とする。
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版
参考書	基礎運動学 第6版

作業療法学科	1学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	臨床技能演習 I		授業形態	演習・講義	使用教室	治療室
講師	高山 翔平	実務経験有	作業療法士として医療機関での実務経験があり、その臨床経験を基にかかわり方や評価方法等授業に反映している。			

教育目標	作業療法における基本的な臨床技能について意義、目的を知り実技を習得することができる。基本的なリスク管理、コミュニケーション方法を学ぶことで、知識を習得する。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 客観的臨床能力試験とは	オリエンテーション 客観的臨床能力試験とは
第2回	技能:レベル1(1)	標準予防策(スタンダードプレコーション) 「手指衛生、手袋・ガウン・ゴーグル・マスクの着脱」
第3回	技能:レベル1(3)	コミュニケーション技法
第4回	技能:レベル1(3)	車椅子駆動介助
第5回	技能:レベル1(4)	車椅子駆動介助
第6回	技能:レベル1(5)	移乗介助
第7回	技能:レベル1(6)	移乗介助
第8回	技能:レベル1(7)	脈拍・血圧測定
第9回	技能:レベル1(8)	形態測定(前腕周径、下肢長)
第10回	技能:レベル1(9)	形態測定(前腕周径、下肢長)
第11回	技能:レベル1(10)	関節可動域測定(上肢)肩関節
第12回	技能:レベル1(11)	関節可動域測定(上肢)肩関節
第13回	技能:レベル1(12)	関節可動域測定(下肢)股関節
第14回	技能:レベル1(13)	関節可動域測定(下肢)股関節
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	実技試験6割、定期試験4割にて総合的に判断し、60点以上を合格とする。ただし、実技試験・筆記試験どちらか一方が6割未満の場合、両者再試験とする。 実技試験・定期試験が未受験の場合は不合格とする。
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版
参考書	

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	1学年	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
科目名	基礎作業学演習 I		授業形態	演習	使用教室	手工芸室
講師	津留寄 衣里子	実務経験有	作業療法士として医療施設にて臨床で経験したことを活かし、作業療法士が行う「作業」について知る機会とする。また、その作業は何を目的に実施しており、どんな治療効果があるのか、学生自身が実際に体験しながら考える機会を提供する。			

教育目標	「作業」とは何かを知り、捉え方、考え方を身に付けるとともに、作業の種目を実際に経験する。また、作業分析を通して、作業の治療効果を知る。
------	---

回	主題	内容
第1回	前期オリエンテーション 絵画	作業とは(オリエンテーション) 国家試験問題・絵画説明
第2回	絵画	絵画実施
第3回	作業分析	なぜ作業分析をするのか
第4回	塗り絵	塗り絵実施(構成的・非構成的)
第5回	塗り絵	感覚、知覚、認知について 塗り絵の作業分析
第6回	貼り絵	貼り絵の作業分析 貼り絵実施
第7回	貼り絵	貼り絵実施
第8回	貼り絵	貼り絵実施
第9回	貼り絵	貼り絵実施・発表
第10回	レクリエーション	レクリエーション体験(教員デモンストレーション)
第11回	レクリエーション	レクリエーション計画(企画書作成)
第12回	レクリエーション	レクリエーション計画・準備
第13回	レクリエーション	レクリエーション実施
第14回	レクリエーション	レクリエーション実施
第15回	レクリエーション・総括	レクリエーション実施 まとめ・総括

評価方法	2/3の出席を必要とする。 定期試験は60点以上を合格とし、定期試験9割、提出物1割の結果から総合的に判断する。
教科書	株式会社メジカルビュー社 第3版作業療法学 ゴールドマスターテキスト
参考書	株式会社メジカルビュー社 第3版作業療法学 ゴールドマスターテキスト

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	1学年	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
科目名	基礎作業学演習Ⅱ		授業形態	演習	使用教室	手工芸室
講師	津留寄 衣里子 田才 葵	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、作業療法士が行う「作業」について知る機会とする。また、その作業は何を目的に実施しており、どんな治療効果があるのか、学生自身が実際に体験しながら考える機会を提供する。			

教育目標	作業療法士が視点をおく作業に対するの意味を理解し、作業を治療にどう活かすのかを考える。また、作業分析を通して作業選択の方法を考える足掛かりとする。
------	---

回	主題	内容
第1回	後期オリエンテーション	オリエンテーション 4年生応援企画・企画書作成
第2回	切り絵	作業分析(感覚・知覚・認知について) 作業説明・道具の確認・図案決定
第3回	切り絵	作業実施
第4回	切り絵	作業実施
第5回	切り絵	作業実施・提出
第6回	エコクラフト	作業実施
第7回	エコクラフト	作業実施・提出
第8回	革細工	作業説明・道具の名称を知る
第9回	革細工	革細工の道具の使用方法を知る・作業実施
第10回	革細工	刻印・染色
第11回	革細工	作業分析
第12回	4年生へのプレゼント	企画の確認・作業実施
第13回	4年生へのプレゼント	作業実施
第14回	作業の紹介	陶芸・マクラメ・籐細工・タイル細工・木工の説明(道具に触れる)
第15回	まとめ	国家試験問題を使用し、基礎作業学を振り返る

評価方法	2/3の出席を必要とする。 定期試験は60点以上を合格とし、定期試験9割、提出物1割の結果から総合的に判断する。
教科書	株式会社メジカルビュー社 第3版作業療法学 ゴールドマスターテキスト
参考書	株式会社メジカルビュー社 第3版作業療法学 ゴールドマスターテキスト

作業療法学科	1学年	通年	単位数	1単位	時間数	40時間
科目名	臨床見学実習		授業形態	実習	使用教室	姫野病院
講師	久保 与広	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を講義に反映している。			

教育目標	1.施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができるなど社会人としての最低限のルールを守ることができる。 2.理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを知ることが出来る。 3.リハビリテーション分野における仕事のやりがいを述べる事が出来る。 4.デイリーノートに実習で経験したこと、学習したこと記録し、報告することが出来る。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	臨床見学実習について(要綱・チェックリスト)
第2回	施設における体験実習	施設の規則や時間の厳守、適切な言葉遣いができることを学ぶ
第3回		
第4回		
第5回		
第6回	施設における体験実習	様々なリハビリテーション場面を見学し 疑問を持って自己学習へとつなげる
第7回		
第8回		
第9回		
第10回	施設における体験実習	デイリーノートに学習したことを記録し、報告する
第11回		
第12回		
第13回		
第14回	施設における体験実習	作業療法士の1日の流れを知る
第15回		
第16回		
第17回		
第18回	施設における体験実習	見学を通して疑問を持ったことについて質問し デイリーノートに記録・報告ができる
第19回		
第20回		
第21回		

評価方法	出席・実習成績・デイリーノート・報告会にて総合的に評価し、100点満点の60点以上を合格とする
教科書	なし
参考書	なし

作業療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45時間
科目名	運動系統学Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	OT2
講師	岡 大樹	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、運動器疾患のリハビリテーションで学んだ解剖学知識を活用し指導している。			

教育目標	① 上肢および体幹に関し、1年次に学習した運動器を復習しながら各関節で起こる運動を学び説明できる ② 運動学を学び、疾患や作業療法との関連を理解する ③ 筋収縮の基礎的性質を理解する
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 総論(1)	オリエンテーション、概要 復習：身体運動の面と軸、関節運動
第2回	肩関節(1)	復習：身体運動の面と軸、関節運動 肩関節複合体、胸鎖関節と靭帯・運動、肩鎖関節と靭帯・運動
第3回	肩関節(2)	肩甲上腕関節と靭帯、第2肩関節、肩甲胸郭関節
第4回	肩関節(3)	上肢帯と肩関節での上腕の動き(肩甲骨の位置と動き、肩甲骨面と棘鎖角、肩関節の動き<肩甲上腕リズム、ゼロポジション>)
第5回	肩関節(4)	上肢帯と肩関節の運動に関わる筋(体表解剖、断層解剖も含む)
第6回	肩関節(5)	上肢帯と肩関節の運動に関わる筋(上腕二頭筋長頭腱、回旋筋腱板、腱板疎部)
第7回	肘関節(1)	肘関節および前腕の運動に関わる関節(腕尺関節、腕橈関節、上橈尺関節)
第8回	肘関節(2)	肘関節と前腕の動き (肘関節・前腕の運動、生理的外反肘、ヒューター線、ヒューター三角)
第9回	手関節・手(1)	手関節・手部の関節と運動(橈骨手根関節、手根中央関節)
第10回	手関節・手(2)	手関節・手部の関節と運動(手根中手関節、中手指節関節、指節間関節)
第11回	手関節・手(3)	第1～10回まとめ
第12回	手関節・手(4)	手指の運動(手指の関節：手根中手関節) (上肢の筋：主に手指の運動に関与する筋／手外在筋)
第13回	手関節・手(5)	手指の運動(上肢の筋(母指の運動に関与する筋／手外在筋)
第14回	手関節・手(6)	手指の関節(MP関節、IP関節) 手内在筋
第15回	手関節・手(7)	手を支配する末梢神経
第16回	手関節・手(8)	手のアーチ、手の把持動作パターン、手の基本的肢位(安静肢位、機能肢位)手の変形(指の伸展機構とその障害、他)
第17回	体幹(1)	体幹の運動 脊柱・頸椎の運動
第18回	体幹(2)	胸椎・胸郭の運動
第19回	体幹(3)	胸椎・胸郭の運動、腰椎の運動
第20回	姿勢	姿勢の分類、重心と重心線
第21回	頭部	顎関節、咀嚼運動とその筋、顔面運動とその筋
第22回	骨格筋	筋収縮の基礎的性質、筋収縮の様態
第23回	まとめ	まとめ

評価方法	定期試験については、60点以上を合格とする。 評価の割合は、小テストなど総合的に判定する。
教科書	・著者：中村隆一 他：基礎運動学 第6版補訂、医歯薬出版株式会社 ・標準理学療法学・作業療法学解剖学第5版 医学書院
参考書	・プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版、坂井建雄、医学書院 ・国試の達人 運動解剖生理学 ・筋骨格系のキネシオロジー 第3版

作業療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	運動系統学Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	OT2
講師	徳田 一貫	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	下肢を構成する運動器を身体運動の観点から統合することが出来る。 姿勢・歩行の概念と各運動器と関連性が統合できる。
------	---

回	主題	内容
第1回	股関節	股関節の靭帯
第2回	股関節	股関節の筋(二関節筋を含む)
第3回	股関節	股関節の筋(二関節筋を含む)
第4回	膝関節	膝関節の構造 大腿骨、脛骨、膝蓋骨の形状
第5回	膝関節	膝のアライメント(FTA・Q角・ミクリッツ線) ころがり運動とすべり運動 終末強制回旋運動 ロッキング機構
第6回	膝関節	半月板について 膝関節の靭帯について①
第7回	膝関節	膝関節の靭帯について② 鷲足筋・大腿四頭筋・ハムストリングスなど
第8回	膝関節	膝関節の筋
第9回	股関節・膝関節	まとめ
第10回	足関節	距腿関節・距骨下関節の構成と靭帯
第11回	足関節	横足根関節、足根中足関節の構成と靭帯足底腱膜
第12回	足関節	足部の筋(外在筋と内在筋)
第13回	足関節	足部の支帯、足部のアーチ
第14回	足関節	まとめ
第15回	筋の総論	筋組織の種類と特徴/筋線維の種類
第16回	筋の総論	骨格筋の構造/筋収縮メカニズム/運動単位①
第17回	筋の総論	骨格筋の構造/筋収縮メカニズム/運動単位②
第18回	正常歩行	重心、立位姿勢の安定性に関わる要因、抗重力筋
第19回	正常歩行	身体的・心理的な前提条件/必要とされる能力について 歩行周期と各相について(ステップ、ストライド、歩隔、歩幅、歩行率)
第20回	正常歩行	歩行周期における用語の理解(従来の用語とランチョロスアミーゴ方式) 歩行周期の各相の特徴と役割
第21回	正常歩行	歩行周期における用語の理解(従来の用語とランチョロスアミーゴ方式) 歩行周期の各相の特徴と役割
第22回	正常歩行	歩行時の運動学的・運動力学的分析/歩行時の各関節の動き
第23回	正常歩行	歩行時の床反力 ロッカーファンクション 歩行時の筋活動

評価方法	定期試験については、60点以上を合格とする。 評価の割合は、小テスト、定期試験など総合的に判定する。
教科書	・著者；中村隆一 他：基礎運動学 第6版補訂、医歯薬出版株式会社 ・観察による歩行分析、医学書院 ・監訳；坂井建雄 他：プロメテウス 解剖学アトラス 第3版、医学書院 ・国試の達人2022 運動解剖生理学編、理学療法科学学会
参考書	・監修；林典雄：運動器疾患の機能解剖学に評価と解釈(下肢編)、運動と医学の出版社 ・編集；伊藤元 他、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学、医学書院 ・著者；竹内義享 他：カラー写真で学ぶ 骨・関節の機能解剖、医歯薬出版株式会社 ・原著者；A.I.KAPANDJI：カパンジー機能解剖学Ⅱ 上肢、体幹・脊柱 原著第6版、医歯薬出版株式会社 ・原著者；Donald A.Neumann：筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版、医歯薬出版株式会社



作業療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経系統学Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	OT2
講師	高山 翔平	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、実体験してきた神経系の各種症候とその考え方を講義に活かしている。			

教育目標	①自律神経系の構造と機能を学び説明できる。 ②反射について学び説明できる。 ③感覚機能に関与する基本的な神経の機能解剖を学び、感覚障害を理解する基礎とする。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 末梢神経系(15)	オリエンテーション 自律神経系①<自律神経系とは>
第2回	末梢神経系(16)	自律神経系②<交感神経系、副交感神経系>
第3回	末梢神経系(17)	自律神経系の復習
第4回	反射(1)	反射とは、反射弓、単シナプス反射、多シナプス反射
第5回	反射(2)	脊髄反射①<伸張反射、α環>
第6回	反射(3)	脊髄反射②<相反抑制(Ia抑制)、自己抑制(Ib抑制)>
第7回	反射(4)	脊髄反射③<屈曲反射(逃避反射)>、脊髄反射の復習
第8回	反射(5)	表在反射、深部反射
第9回	反射(6)	反射の中間まとめ
第10回	反射(7)	姿勢反射・反応①<原始反射>
第11回	反射(8)	姿勢反射・反応②<原始反射>
第12回	反射(9)	姿勢反射・反応③<立ち直り反応、平衡反応>
第13回	反射(10)	反射の復習(国試)
第14回	感覚(1)	感覚とは、感覚の分類
第15回	感覚(2)	外皮①<皮膚の構造と機能、皮膚受容器、角質器、皮膚腺> 外皮の復習
第16回	感覚(3)	体性感覚① <表在感覚(皮膚感覚)および深部感覚の受容器>
第17回	感覚(4)	体性感覚②<体性感覚の神経路の復習①>
第18回	感覚(5)	体性感覚③<体性感覚の神経路の復習②>
第19回	感覚(6)	感覚障害<末梢神経系の障害、脊髄障害>
第20回	感覚(7)	特殊感覚①<視覚器①>
第21回	感覚(8)	特殊感覚②<視覚器②>
第22回	感覚(9)	特殊感覚③<視覚器③> 視覚器の復習(国試)
第23回	前期まとめ	

評価方法	・小テスト(1割)、定期試験(9割)にて総合的に判定し、60点以上を合格とする
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA ・シンプル生理学改訂第8版、南江堂
参考書	

作業療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経系統学Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	OT2
講師	川口 貴史	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、実体験してきた神経系の各種症候とその考え方を講義に活かしている。			

教育目標	①感覚機能に関与する基本的な神経の機能解剖を学び、感覚障害を理解する基礎とする。 ②高次脳機能について学び説明できる。 ③運動機能に関与する基本的な神経の機能解剖を学び、随意運動が起こるメカニズムと運動異常を理解する。 ④脳画像の基礎について学び、障害との関連を理解する。
------	---

回	主題	内容
第1回	特殊感覚	オリエンテーション/特殊感覚①
第2回		特殊感覚②<平衡聴覚器②>
第3回		特殊感覚③<味覚器・嗅覚器>
第4回	高次脳機能	機能、ネットワーク
第5回		機能、ネットワーク
第6回	運動(1)	錐体路系がかかわる機能、錐体外路系がかかわる機能
第7回		錐体路系がかかわる機能、錐体外路系がかかわる機能
第8回	運動の異常(1)	運動麻痺
第9回	運動(2)	大脳基底核の機能
第10回		大脳基底核の機能
第11回	運動の異常(2)	不随意運動
第12回	運動(3)	小脳の機能
第13回		小脳の機能
第14回	運動の異常(3)	運動失調
第15回	運動、運動の異常 復習	復習
第16回	脳卒中回復メカニズム	神経可塑性、機能回復に影響する因子
第17回	睡眠と脳波	脳波とは、脳波の種類、睡眠の役割、睡眠の分類
第18回		睡眠と脳波の復習
第19回	脳画像	CT,MRIの基礎
第20回		CT,MRIの基礎
第21回		脳の解剖と画像のみえ方
第22回		脳の解剖と画像のみえ方
第23回	後期まとめ	

評価方法	・小テスト(1割)、定期試験(9割)にて総合的に判定し、60点以上を合格とする
教科書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版、医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA
参考書	・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版、医学書院 ・標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版、医学書院 ・絵でみる脳と神経～しくみと障害のメカニズム～ 第4版、医学書院

作業療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	臓器系統学Ⅲ		授業形態	講義	使用教室	OT2
講師	大坪 健一	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次臓器系統学Ⅰ,Ⅱの知識を再確認し、国家試験に見合う知識を習得する。</li> <li>・国家試験が解答できるレベルが今学習の到達点とする。</li> <li>・各臓器に関する機能を説明できる。</li> </ul>
------	--

回	主題	内容	
第1回	血液	血液の一般的性質について	VC:目で見える解剖と生理Vol.5血液
第2回	血液	赤血球とヘモグロビンについて	VC:目で見える解剖と生理Vol.5血液
第3回	血液	白血球と免疫について	VC:目で見える解剖生理Vol.5血液 VC:目で見える解剖生理Vol.14免疫
第4回	血液	白血球と免疫について	VC:目で見える解剖生理Vol.5血液 VC:目で見える解剖生理Vol.14免疫
第5回	血液	血液凝固と血漿蛋白について	VC:目で見える解剖と生理Vol.5血液
第6回	循環	心臓の構造について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第7回	循環	小テスト①/心臓の構造について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第8回	循環	心臓の機能について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第9回	循環	心筋の静止膜電位・活動電位について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第10回	循環	心電図について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第11回	循環	心ポンプ機能について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第12回	循環	心周期と心拍出について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第13回	循環	循環とリンパ循環について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第14回	循環	血圧について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第15回	循環	循環調節について	VC:目で見える解剖生理Vol.3心臓
第16回	呼吸	呼吸器の構造について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第17回	呼吸	小テスト②/ガス交換について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第18回	呼吸	ガス交換と呼吸運動について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第19回	呼吸	肺気量と換気について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第20回	呼吸	呼気と吸気の組成について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第21回	呼吸	酸塩基平衡について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第22回	呼吸	呼吸の調節について	VC:目で見える解剖生理Vol.6呼吸
第23回	まとめ	小テスト③/前期講義まとめ	

評価方法	受講状況及び小テスト全3回(25%)と定期試験(75%)の結果、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	貴邑 富久子/根来 英雄 南江堂 改訂第8版 シンプル生理学
参考書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版 動画教材ビジュランクラウド

作業療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45
科目名	臓器系統学Ⅳ		授業形態	講義	使用教室	OT2
講師	石田恭涼	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、リハビリ場面で遭遇しやすい臓器関連疾患を知る基礎として学ぶ。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次臓器系統学の知識を再確認し、国家試験に見合う知識を得る。</li> <li>・国家試験が解答できるレベルが今学習の到達点とする。</li> <li>・内科学・整形外科学・神経内科学の基礎となるように学習する</li> </ul>
------	---

回	主題	内容
第1回	消化と吸収	胚葉・消化吸収の概要
第2回	消化と吸収	CT・MRI画像 消化管の運動と性質
第3回	消化と吸収	消化管の運動(口腔・胃)
第4回	消化と吸収	消化管の運動(腸管)
第5回	消化と吸収	消化酵素①
第6回	消化と吸収	消化酵素②
第7回	消化と吸収	消化酵素・吸収
第8回	消化と吸収	肝臓
第9回	栄養と代謝	栄養と代謝
第10回	栄養と代謝	糖質・脂質・タンパク質代謝
第11回	尿の生成と排泄	腎臓の構造
第12回	尿の生成と排泄	腎臓の働き
第13回	尿の生成と排泄	ネフロンと腎小体
第14回	尿の生成と排泄	ろ過と再吸収
第15回	尿の生成と排泄	膀胱
第16回	尿の生成と排泄	膀胱の働きと神経支配
第17回	生殖器	生殖器の構造
第18回	内分泌	ホルモン成分と名称一覧
第19回	内分泌	視床下部・下垂体ホルモン
第20回	内分泌	甲状腺・上皮小体ホルモン
第21回	内分泌	カルシウム代謝
第22回	内分泌	副腎ホルモン
第23回	内分泌	膵臓ホルモン

評価方法	小テスト2割、定期テスト8割とし、総合で6割以上を合格とする。
教科書	シンプル生理学 改訂第8版 南江堂 共著 貴邑富久子、根来英雄 国試の達人(運動解剖生理学編)
参考書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版. 医学書院. 著 石澤光郎、富永淳 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版. 医学書院. 著 野村巖

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	内科学 I	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚室
講師	井崎 義己				一般	

教育目標	総合病院や高齢者施設等での理学療法の経験を活かして総合的、体系的に講義を行う。また、長年にわたる教員経験から理学療法士・作業療法士に求められる内科疾患の基本的な症候や診察法、疾患について指導する。内科的疾患の原因や症状、治療法、予後、予防等について学習することで、疾病と障害、リハビリテーションとの関連についての理解を図る。
------	--

回	主題	内容
第1回	第2章 内科的診断と治療の実際 ①	・診断・鑑別診断の進め方 ・カルテの書き方 ・診察法
第2回	第2章 内科的診断と治療の実際 ②	・臨床検査 ・内科的治療
第3回	第3章 症候学①	・発熱 ・倦怠感 ・食思不振 ・悪心嘔吐 ・易感染性 ・意識障害
第4回	第3章 症候学②	・めまい ・浮腫むくみ ・レイノー現象 ・頭痛 ・リンパ腫腫脹 ・ショック
第5回	第4章 循環器疾患①	【第1回～第4回の小テスト】 ・循環器系の解剖生理
第6回	第4章 循環器疾患②	・循環器疾患の主な症候 ・循環器疾患の診断法
第7回	第4章 循環器疾患③	・循環器疾患各論(1)
第8回	第4章 循環器疾患④	・循環器疾患各論(2)
第9回	第5章 呼吸器疾患①	【第5回～第8回の小テスト】 ・呼吸器の解剖生理
第10回	第5章 呼吸器疾患②	・呼吸器疾患の症候と病態生理 ・臨床検査所見
第11回	第5章 呼吸器疾患③	・呼吸器疾患各論(1)
第12回	第5章 呼吸器疾患④	・呼吸器疾患各論(2)
第13回	第6章 消化管疾患①	【第9回～第12回の小テスト】 ・消化管の解剖生理
第14回	第6章 消化管疾患②	・消化管疾患の症候と病態生理 ・消化管疾患の検査法
第15回	第6章 消化管疾患③	・消化管疾患各論

評価方法	小テスト(30点)、定期試験(70点)の合計点で評価する。そのうち60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 医学書院
参考書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版、医学書院 『病気がみえる』シリーズ 医療情報科学研究所

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	内科学Ⅱ		授業の形態	講義	使用教室	視聴覚室
講師	井崎 義己		一般			

教育目標	総合病院や高齢者施設等での理学療法の経験を活かして総合的、体系的に講義を行う。また、長年にわたる教員経験から理学療法士・作業療法士に求められる内科疾患の基本的な症候や診察法、疾患について指導する。内科的疾患の原因や症状、治療法、予後、予防等について学習することで、疾病と障害、リハビリテーションとの関連についての理解を図る。
------	--

回	主題	内容
第1回	第7章 肝胆膵疾患①	・肝臓, 胆嚢, 膵臓の解剖生理 ・肝胆膵疾患の検査法
第2回	第7章 肝胆膵疾患②	・肝胆膵疾患各論
第3回	第8章 血液・造血器疾患①	・血液の生理 ・血液の検査法
第4回	第8章 血液・造血器疾患②	・血液疾患の主な症候 ・血液疾患各論
第5回	第9章 代謝性疾患①	【第1回～第4回の小テスト】 ・代謝調節の仕組み
第6回	第9章 代謝性疾患②	・代謝性疾患各論
第7回	第10章 内分泌疾患①	・内分泌器官と分泌されるホルモンの解剖生理
第8回	第10章 内分泌疾患②	・内分泌疾患各論
第9回	第11章 腎・泌尿器疾患①	【第5回～第8回の小テスト】 ・腎・泌尿器系の解剖生理 ・腎疾患の症候と病態生理
第10回	第11章 腎・泌尿器疾患②	・腎, 泌尿器疾患各論
第11回	第12章 アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症①	・免疫系の働き
第12回	第12章 アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症②	・アレルギー疾患 ・膠原病 ・リウマチ性疾患 ・免疫不全症
第13回	第13章 感染症疾患①	【第9回～第12回の小テスト】 ・感染症総論(病原体・感染経路・感染予防等)
第14回	第13章 感染症疾患②	・感染症各論
第15回	第14章 リハビリテーションに必要な栄養学	・栄養素 ・消化吸収と代謝 ・代替栄養素 等

評価方法	小テスト(30点)、定期試験(70点)の合計点で評価する。そのうち60点以上を合格とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 医学書院
参考書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版、医学書院 『病気がみえる』シリーズ 医療情報科学研究所

作業療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	整形外科 I	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	姫野 信吉 先生				一般	

教育目標	理学療法・作業療法に必要な整形外科の基礎と臨床を習得する。 国家試験に必要・最低限の知識を確実に習得する。
------	--

回	主題	内容
第1回	基礎	骨関節の構造
第2回	基礎	骨関節の生理、骨粗鬆症
第3回	基礎	骨折
第4回	基礎	筋肉の構造と生理
第5回	疾患	神経の構造と生理
第6回	疾患	神経筋疾患
第7回	疾患	末梢神経障害
第8回	疾患	炎症、感染
第9回	基礎	RA以外の関節炎
第10回	基礎	免疫
第11回	疾患	RA(1)
第12回	疾患	RA(2)
第13回	疾患	変形性関節症
第14回	疾患	腫瘍 やけど
第15回	疾患	拮抗筋の働きと制御

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	標準整形外科学 第15版、医学書院
参考書	

作業療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	整形外科Ⅱ	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	姫野 信吉 先生			一般		

教育目標	理学療法・作業療法に必要な整形外科の基礎と臨床を習得する。 国家試験に必要・最低限の知識を確実に習得する。
------	--

回	主題	内容
第1回	上肢疾患(1)	肩甲帯～肩
第2回	上肢疾患(2)	肩～肘
第3回	上肢疾患(3)	肘～手
第4回	上肢疾患(4)	手～指
第5回	下肢疾患(1)	股(1)
第6回	下肢疾患(2)	股(2)
第7回	下肢疾患(3)	膝(1)
第8回	下肢疾患(4)	膝(2)～下腿
第9回	下肢疾患(5)	足
第10回	脊椎疾患(1)	頸椎疾患
第11回	脊椎疾患(2)	腰椎疾患
第12回	脊椎疾患(3)	脊髄損傷
第13回	脊椎疾患(4)	脊髄損傷(1)
第14回	脊椎疾患(5)	脊髄損傷(1)
第15回	脊椎疾患(6)	脊髄損傷(2)

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	標準整形外科学 第15版、医学書院
参考書	



作業療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	神経内科学 I	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	上野 未貴 先生		一般			

教育目標	<p>本講義では、次の目標を設定する。</p> <p>1) 臨床実習に直結する内容を精査し、解説する。</p> <p>2) 各回に記された学習の主題と内容を予習し、疑問点の解決、講義でイメージ化し、理解する。</p> <p>3) 筋電図、脳波、画像検査など、検査と評価項目はPT/OTの必須で臨床実習に直結するためその意味を理解してもらう。</p>
------	--

回	主題	内容
第1回	序論;障害とリハビリプログラム	リハビリテーションの概念、障害の階層性、評価・治療プログラム、地域リハなど
第2回	中枢神経系の解剖と機能	神経の発達と加齢、CNS・PNSの解剖と機能、髄液、可塑性、歩行
第3回	神経学的診断と評価	診断の実際、体幹・四肢の診察と検査、障害の評価
第4回	神経学的検査法	画像診断、電気生理学的検査、髄液検査、血液生化学的検査
第5回	意識障害と頭痛	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神
第6回	錐体路・錐体外路徴候	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮、錐体外路徴候、不随意運動
第7回	運動失調と感覚障害	運動失調の原因、分類、評価、リハビリ、感覚障害の分布と特徴
第8回	高次脳機能障害; 失語症	言語中枢の発達、局在、機能、失語症の診断、評価、リハビリ
第9回	高次脳機能障害; 失認と失行	失認の概念と分類、リハビリ、失行の概念と分類、リハビリ
第10回	高次脳機能障害; 認知症	記憶の分類、メカニズム、記憶障害、認知症の症状、病因、リハビリ
第11回	高次脳機能障害; 注意障害	注意障害の概念と分類、リハビリ
第12回	高次脳機能障害; 遂行機能障害	遂行機能障害の概念と分類、リハビリ
第13回	構音障害と嚥下障害	構音・嚥下障害の原因、診断と治療
第14回	脳神経外科領域の疾患	頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験、小テスト、出欠状況や授業態度などを総合して60点以上を合格とする。
教科書	神経内科学 第5版 川平編集 医学書院
参考書	病気がみえる 脳・神経 Vol 7 医療情報科学研究所 メディックメディア 絵でみる脳と神経 第3版 馬場編集 医学書院

作業療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	神経内科学Ⅱ	授業の形態	講義		使用教室	講堂
担当講師	上野 未貴 先生		一般			

教育目標	<p>本講義の各論では、次の目標を設定する。</p> <p>1) 各種の疾患に直結する内容を精査し、解説する。</p> <p>2) 各論の各回に記された学習の主題と内容を予習し、疑問点の解決、講義でイメージ化し、理解する。</p> <p>3) 検査、評価、診断とリハビリ治療、PT/OT関連項目は臨床実習に直結するためその意味を理解してもらう。</p>
------	--

回	主題	内容
第1回	脳血管障害(CVA)Ⅰ	脳血管障害とは、症状と分類
第2回	脳血管障害(CVA)Ⅱ	脳血管障害の診断と治療
第3回	脳血管障害(CVA)Ⅲ	リハビリテーションの実際
第4回	認知症	認知症とは、鑑別診断、治療可能な認知症
第5回	脳腫瘍	脳腫瘍とは、脳腫瘍各論
第6回	外傷性脳損傷	外傷性脳損傷の概要、症状と治療
第7回	変性・脱髄疾患	変性・脱髄疾患の分類と症状
第8回	錐体外路の変性疾患	錐体外路変性疾患の定義、錐体外路疾患各論(Parkinson病/Parkinson症候群)
第9回	末梢神経障害とてんかん	末梢神経障害の分類と所見、てんかんとは、てんかんの診断と治療
第10回	筋疾患Ⅰ	進行性筋ジストロフィー
第11回	筋疾患Ⅱ	重症筋無力症、多発性筋炎(皮膚筋炎)、内分泌代謝性筋疾患、その他筋疾患
第12回	感染性疾患	神経系の感染、感染性疾患各論
第13回	中毒・栄養欠乏性の神経疾患	中毒性疾患の種類、栄養欠乏性の神経疾患
第14回	小児神経疾患	脳性麻痺、二分脊椎、Down 症候群、先天性代謝異常
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験、小テスト、出欠状況や授業態度などを踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	神経内科学 第5版 川平編集 医学書院
参考書	病気がみえる 脳・神経 Vol 7 医療情報科学研究所 メディックメディア 絵でみる脳と神経 第3版 馬場編集 医学書院

作業療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45時間
科目名	精神医学 I		授業形態	講義	使用教室	OT2
講師	津留 寄 衣里子	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その中で関わらせていただいた患者様の精神状態や症状がどのようなものなのか、疾患ごとに考える機会を作る。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療に携わる中での精神医学の基礎知識を身につける。</li> <li>・作業療法士国家資格に必要な知識を習得する。</li> <li>・現在の精神科領域を知るとともに、現代社会と人の心理との関係を把握する。</li> </ul>
------	--

回	主題	内容
第1回	精神医学とは	精神医学とは 歴史と変遷 精神障害の成因と分類、ストレスモデル
第2回	精神医学とは	意識障害、注意障害、知能障害、記憶障害、性格
第3回	精神医学とは	まとめ、国家試験問題
第4回	脳器質性精神障害	脳機能の振り返り、脳器質性精神障害(概要)
第5回	脳器質性精神障害	中核症状・BPSD、MCI
第6回	脳器質性精神障害	(大脳皮質の変性疾患)アルツハイマー型認知症、ピック病
第7回	脳器質性精神障害	(大脳皮質の変性疾患)Lewy小体型認知症 (血管性認知症)脳血管性認知症 総論
第8回	脳器質性精神障害	まとめ 国家試験問題
第9回	精神機能の障害と精神症状	感情障害、自我障害
第10回	精神機能の障害と精神症状	知覚障害(幻覚体験、映像)
第11回	精神機能の障害と精神症状	思考障害、病感・病識
第12回	精神機能の障害と精神症状	国家試験問題(精神症状の基礎)
第13回	統合失調症	統合失調症(概要)
第14回	統合失調症	病初期ないし増悪期、慢性期の症状 陽性症状、陰性症状
第15回	統合失調症	病初期ないし増悪期、慢性期の症状 陽性症状、陰性症状
第16回	統合失調症	評価、治療、薬物療法
第17回	統合失調症	社会生活面の制限 病型と分類 4つのA
第18回	統合失調症	国家試験問題・まとめ
第19回	気分障害	うつ病(概要)
第20回	気分障害	薬物療法、関わり方
第21回	気分障害	躁うつ病(概要)
第22回	気分障害	薬物療法、関わり方
第23回	気分障害	国家試験問題・まとめ

評価方法	定期試験(60点以上を合格とする)、小テストを基に総合的に判断する。
教科書	標準理学療法・作業療法専門基礎分野 精神医学 第4版 作業療法学 第3版 ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学
参考書	なし

作業療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45時間
科目名	精神医学Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	OT2
講師	津留 寄 衣里子	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その実務経験を活かして、精神疾患の特徴と捉え方について詳しい理解をすすめる。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療に携わる中での精神医学の基礎知識を身につける。</li> <li>・作業療法士国家資格に必要な知識を習得する。</li> <li>・現在の精神科領域を知るとともに、現代社会と人の心理との関係を把握する。</li> </ul>
------	--

回	主題	内容
第1回	神経症性障害	神経症性障害のとらえ方 不安および恐怖を中心とする神経症性障害
第2回	神経症性障害	強迫を中心とする神経症性障害 ストレス関連障害
第3回	神経症性障害	解離を中心とする神経症性障害 身体表現性障害・薬物療法
第4回	神経症性障害	国家試験問題・まとめ
第5回	生理的障害	摂食障害
第6回	生理的障害	睡眠障害(非器質性)
第7回	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害とは 類型
第8回	パーソナリティ障害	行動の障害 まとめ
第9回	てんかん	定義と概念 発症頻度、年齢、遺伝素因
第10回	てんかん	てんかんの発作型と症状 全般起始発作
第11回	てんかん	全般起始発作
第12回	てんかん	焦点起始発作、代表的なてんかん
第13回	てんかん	薬物療法・国家試験問題
第14回	精神作用物質	精神依存・身体依存・耐性
第15回	精神作用物質	アルコール関連精神障害
第16回	精神作用物質	薬物依存による精神障害
第17回	精神遅滞(知的障害)	知能発達障害の程度による分類
第18回	精神遅滞(知的障害)	知能発達障害の程度による分類
第19回	心理発達の障害	特異的発達障害(学習障害:LD)
第20回	心理発達の障害	広汎性発達障害(自閉症、アスペルガー症候群、レット症候群)
第21回	ライフサイクル	ライフサイクルにおける精神医学 緘黙 チック 分離不安 ADHD
第22回	ライフサイクル	学童期～青年期の精神障害、入院形態
第23回	まとめ	国家試験問題・まとめ

評価方法	定期試験(60点以上を合格とする)、小テストを基に総合的に判断する。
教科書	標準理学療法・作業療法専門基礎分野 精神医学 第4版 作業療法学 第3版 ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学
参考書	なし

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	小児科学		授業の形態	講義	使用教室	視聴覚室
講師	佐藤 歩		一般			

教育目標	国家試験に出題される項目に沿って学習し、それらを習得すること リハビリテーションの現場において必要な小児科学の一般知識を習得すること
------	---

回	主題	内容
第1回	新生児・未熟児疾患	小児期の区分 用語 新生児仮死 神経学的所見
第2回	先天異常と遺伝病	先天異常 遺伝疾患 先天奇形 など
第3回	循環器疾患	胎児循環と新生児循環 チアノーゼ 心不全
第4回	呼吸器系疾患	肺の発生 界面活性 呼吸器疾患の臨床症状
第5回	感染症・消化器疾患	小児の感染症 消化器疾患など
第6回	内分泌・代謝疾患	内分泌疾患 糖代謝異常など
第7回	免疫疾患と泌尿器疾患	免疫 アレルギー 膠原病 腎・泌尿器 生殖器疾患など
第8回	小児科学総論	小児の成長・発育と発達 栄養と摂食 保健
第9回	発生	生命の誕生と発生 胚葉の形成
第10回	神経系疾患(1)	中枢神経疾患、てんかん等
第11回	神経系疾患(2)	脳性麻痺の分類・原因
第12回	神経系疾患(3)	脊髄・末梢神経疾患
第13回	筋系疾患	筋ジストロフィーの種類と特徴
第14回	骨関節系疾患	小児の骨折の特徴 等
第15回	振り返り	まとめ

評価方法	2/3以上の出席を前提とします。期末の筆記試験を実施し、総合で60%以上の得点を合格とします。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学
参考書	

作業療法学科	2学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	理学療法士論		授業形態	講義	使用教室	OT2
講師	石堂 優太	実務経験有	理学療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	<p>① 理学療法、理学療法士とはなにか、理学療法の対象や理学療法士が活躍する分野等を理解する。また作業療法との違いを知り、職種連携の重要性を学ぶ。</p> <p>② 物理療法の種類、適応と禁忌、使用方法を学ぶ。</p> <p>③ 運動生理学、心電図について理解を深める。</p>
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	理学療法士とは
第2回	理学療法について	理学療法士と作業療法士の違い
第3回	物理療法	物理療法の基礎
第4回	物理療法	温熱療法(1)
第5回	物理療法	温熱療法(2)
第6回	物理療法	寒冷療法/水治療法
第7回	物理療法	超音波療法
第8回	物理療法	電気刺激療法
第9回	物理療法	電気刺激療法
第10回	物理療法	運動と生理学の関係性
第11回	運動生理学	ATとは
第12回	運動生理学	運動処方
第13回	心電図	心電図
第14回	心電図	心電図
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	2/3出席を必要とする。 小テスト、授業態度、定期試験の結果から総合的に6割以上を合格と判断する。
教科書	編集:石川 朗, 理学療法テキスト 物理療法学・実習, 中山書店 編集:解良 武士, crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学, MEDICAL VIEW
参考書	

作業療法学科	2学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	作業療法評価学Ⅱ		授業形態	演習・講義	使用教室	治療室1
講師	石川貴史	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	作業療法における基本的な評価(関節可動域測定、反射検査、筋緊張検査、徒手筋力検査)について意義目的を知り、実技を習得することが出来る。
------	---

回	主題	内容
第1回	関節可動域測定1	関節可動域測定：測定(上下肢の振り返り)
第2回	関節可動域測定2	関節可動域測定：測定(手指、足関節)
第3回	関節可動域測定3	関節可動域測定：測定(手指、足関節)
第4回	関節可動域測定4	関節可動域測定：測定(頸部、体幹)
第5回	関節可動域測定5	関節可動域測定：測定(頸部、体幹)
第6回	関節可動域測定6	関節可動域測定：振り返り
第7回	徒手筋力検査1	徒手筋力検査とは？徒手筋力検査の段階付け
第8回	徒手筋力検査2	徒手筋力検査：測定(上肢)
第9回	徒手筋力検査3	徒手筋力検査：測定(上肢)
第10回	徒手筋力検査4	徒手筋力検査：測定(上肢)
第11回	徒手筋力検査5	徒手筋力検査：測定(下肢)
第12回	徒手筋力検査6	徒手筋力検査：測定(下肢)
第13回	徒手筋力検査7	徒手筋力検査：測定(下肢)
第14回	徒手筋力検査8	徒手筋力検査：測定(頸部)
第15回	徒手筋力検査9	徒手筋力検査：測定(体幹)
第16回	徒手筋力検査10	徒手筋力検査：測定(脳神経の支配筋、徒手筋力検査の別法)
第17回	徒手筋力検査11	徒手筋力検査：振り返り
第18回	徒手筋力検査12	徒手筋力検査：振り返り
第19回	反射検査1	反射とは、反射検査(深部腱反射)
第20回	反射検査2	反射検査(病的反射、表在反射)
第21回	反射検査3	反射検査：復習と実際
第22回	筋緊張検査1	筋緊張の理解、筋緊張検査
第23回	筋緊張検査2	筋緊張検査：復習と実際

評価方法	小テスト2割、実技試験と定期試験で8割とし、総合で6割以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とする。。また、実技試験・定期試験どちらか一方が6割未満の場合は両者再試験を実施する。
教科書	・新徒手筋力検査法 第10版 共同医書出版社 ・標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院
参考書	・病気がみえる⑦ 脳・神経

作業療法学科	2学年	後期	単位数	2	時間数	45時間
科目名	臨床技能演習Ⅱ		授業形態	演習	使用教室	治療室
講師	岡 大樹	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	作業療法における基本的な評価について意義目的を知り、OSCE(客観的臨床能力試験)を通して、実際の臨床場面で必要な臨床技能を身に付ける。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	理学療法士・作業療法士の現状(臨床実習の変遷) 臨床実習とは
第2回	OSCEとは	臨床技能とOSCEについて
第3回	療法士面接	観察・面接 療法士面接とは
第4回	療法士面接	手順のポイント OSCE課題:療法士面接
第5回	リスク管理	リスク管理とは
第6回	リスク管理	作業療法事故実態調査より
第7回	リスク管理	リスク管理(点滴、バルーン)
第8回	リスク管理	リスク管理(バルーン、転倒防止)
第9回	動脈血酸素飽和度	パルスオキシメーターについて
第10回	関節可動域測定	関節可動域測定:意義、目的、基礎知識 OSCE課題:関節可動域測定(上肢:肩関節外転)
第11回	関節可動域測定	OSCE課題:関節可動域測定(上肢:肩関節外転)
第12回	関節可動域測定	骨指標「肩甲帯」「下肢」について OSCE課題:関節可動域測定(下肢:股関節屈曲)
第13回	関節可動域測定	OSCE課題:関節可動域測定(下肢:股関節屈曲)
第14回	関節可動域測定	OSCE課題:関節可動域測定(下肢:股関節屈曲) 握力・ピンチ力について
第15回	筋力測定(MMT)	筋力測定(MMTについて) OSCE手順のポイント
第16回	筋力測定(MMT)	OSCE課題:筋力測定(上肢)
第17回	筋力測定(MMT)	OSCE課題:筋力測定(上肢)、(下肢)
第18回	筋力測定(MMT)	OSCE課題:筋力測定(下肢)
第19回	形態測定	形態測定、手順のポイント
第20回	形態測定	OSCE課題:形態測定(前腕周径・下肢長)
第21回	反射検査	反射の測定、手順のポイント
第22回	反射検査	OSCE課題:反射検査(腱反射・病的反射)
第23回	まとめ	レベル2まとめ

評価方法	小テスト、実技試験および定期試験をもって総合的に判断する。 試験については60点以上を単位認定とする。
教科書	・標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 ・PTOTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助、検査測定編第2版補訂版:金原出版
参考書	



作業療法学科	2学年	通年(後期)	単位数	2	時間数	60時間
科目名	日常生活活動 I		授業形態	講義・演習	使用教室	OT2
講師	高山 翔平	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を活かし日常生活活動をイメージできるよう理解を促していく。			

教育目標	1.福祉用具・自助具の使用法を理解し、各疾患ADLへ繋げていく 2.生活行為向上マネジメントの概要・活用の仕方を理解し、事例を通して実践的な活用方法を知る 3.OSCEにてADL介入の臨床的視点を学ぶことができる
------	--

回	主題	内容
第1回	MTDLP総論	生活行為向上マネジメント概要
第2回	MTDLP方法	生活行為向上マネジメントの活用の仕方
第3回	MTDLP実践	生活行為向上マネジメント実践①
第4回	MTDLP実践	生活行為向上マネジメント実践②
第5回	MTDLP実践	生活行為向上マネジメント実践③
第6回	MTDLP実践	生活行為向上マネジメント実践④
第7回	MTDLP実践	生活行為向上マネジメント発表
第8回	ADLの考え方	ADLの実践 車椅子駆動と歩行(杖の使用について)
第9回	ADLの実践	ADLの実践 歩行(杖の使用について)
第10回	OSCE	ADLの実践 車椅子駆動練習
第11回	ADLの実践	ADLの実践 食事(考え方、介入方法)
第12回	OSCE	ADLの実践 食事(考え方、介入方法)
第13回	OSCE	ADLの実践 更衣(考え方、介入方法)
第14回	OSCE	ADLの実践 更衣(実践)
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験8割、MTDLPの提出資料、発表、小テスト2割を持って60%以上で履修を認定する
教科書	羊土社『PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版』柴 喜崇 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入 編
参考書	三輪書店『I・ADL 作業療法の戦略・戦術・技術 第3版』生田宗博 医歯薬出版『新イラストによる安全な動作介助の手引き 第2版』木村哲彦

作業療法学科	2学年	通年(後期)	単位数	2	時間数	60時間
科目名	日常生活活動 I		授業形態	講義・演習	使用教室	OT2
講師	高山 翔平	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を活かし日常生活活動をイメージできるよう理解を促していく。			

教育目標	1.福祉用具・自助具の使用法を理解し、各疾患ADLへ繋げていく 2.生活行為向上マネジメントの概要・活用の仕方を理解し、事例を通して実践的な活用方法を知る 3.OSCEにてADL介入の臨床的視点を学ぶことができる
------	--

回	主題	内容
第1回	MTDLP総論	生活行為向上マネジメント概要
第2回	MTDLP方法	生活行為向上マネジメントの活用の仕方
第3回	MTDLP実践	生活行為向上マネジメント実践①
第4回	MTDLP実践	生活行為向上マネジメント実践②
第5回	MTDLP実践	生活行為向上マネジメント実践③
第6回	MTDLP実践	生活行為向上マネジメント実践④
第7回	MTDLP実践	生活行為向上マネジメント発表
第8回	ADLの考え方	ADLの実践 車椅子駆動と歩行(杖の使用について)
第9回	ADLの実践	ADLの実践 歩行(杖の使用について)
第10回	OSCE	ADLの実践 車椅子駆動練習
第11回	ADLの実践	ADLの実践 食事(考え方、介入方法)
第12回	OSCE	ADLの実践 食事(考え方、介入方法)
第13回	OSCE	ADLの実践 更衣(考え方、介入方法)
第14回	OSCE	ADLの実践 更衣(実践)
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験8割、MTDLPの提出資料、発表、小テスト2割を持って60%以上で履修を認定する
教科書	羊土社『PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版』柴 喜崇 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入 編
参考書	三輪書店『I・ADL 作業療法の戦略・戦術・技術 第3版』生田宗博 医歯薬出版『新イラストによる安全な動作介助の手引き 第2版』木村哲彦

作業療学科	2学年	前期	単位数	1単位	時間数	45時間
科目名	介護・体験実習		授業形態	実習	使用教室	舞風台/OT2
講師	石田恭涼	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、対象者との関わり方、基本的な検査方法の見学模倣を経験させることができる。			

教育目標	①学生としての心構えを身につける。 ②時間や規則を守る、体調管理ができる。 ③利用者様と職場スタッフとの人間関係をつくる。 ④報告・連絡・相談ができるようになる。 ⑤整理整頓ができる。 ⑥介護老人保健施設・サービス付き高齢者住宅の社会的な位置づけを理解する。 ⑦コミュニケーション能力の向上に努める。 ⑧見学を通して得られる情報を収集する。 ⑨記録を取り、提出することができる。
------	---

回	主題	内容
<b>全体</b>		
第1回	オリエンテーション	実習要綱説明
第2回	オリエンテーション	舞風台職員による施設説明
<b>A班/B班/C班</b>		
第3回	実習	舞風台にて実習を行う
第4回	実習	舞風台にて実習を行う
第5回	実習	舞風台にて実習を行う
第6回	実習	舞風台にて実習を行う
第7回	実習	舞風台にて実習を行う
第8回	実習	舞風台にて実習を行う
<b>全体</b>		
第9回	準備	発表準備
第10回	準備	発表準備
第11回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第12回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第13回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
第14回	まとめ	実習内容について班ごとに発表
<b>【後期】</b>		
<b>全体</b>		
第15回	オリエンテーション	検査測定におけるオリエンテーション
第16回	オリエンテーション	検査測定におけるオリエンテーション
<b>A班/B班/C班/D班</b>		
第17回	検査測定	実習
第18回	検査測定	実習
第19回	検査測定	実習
第20回	検査測定	実習
第21回	検査測定	演習
第22回	検査測定	演習
第23回	検査測定	演習
第24回	検査測定	演習

評価方法	出席状況、教育目標の達成状況をもとに総合的に判断する。 後期に行われる「検査測定」の内容を含めて評価し、100点満点中60点以上を合格とする。
教科書	なし
参考書	なし

作業療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	社会性向上セミナーⅡ		授業形態	講義	使用教室	講堂/視聴覚室
講師	(内部)綾部/丸山/石川/津留寄 その他 外部講師		一般			

教育目標	① 施設／対象者から選ばれる人財になる ② 個人の価値観／ビジョンを描くことができるようになる ③ 他者・社会に対する利他的考え、発想を磨く ④ 講義を通して自身の考えをまとめ、伝える力を身に付ける
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション／マインドフルネス	思考と感情(マインドフルネス瞑想の実施)／自己認識(ボディ・スキャン／ジャーナリング)
第2回	KRi COACHiNG①	自分軸を探る／知る(ライフのたね／Time Line)
第3回	KRi COACHiNG②	ポジションチェンジ・ステイト(グループ学習を通して考える)／タイムライン(未来ビジョン)
第4回	KRi COACHiNG③	障害受容について学び患者様の心理状況を理解したうえで患者様にとってのコーチになる
第5回	長期目的・目標① (自分を知り、目標を明確にする)	「12の力」で自分の強みと弱みを理解する。 「長目シート」で目標設定し、4観点で目標の目的を明確にする
第6回	長期目的・目標② (4観点を深め、目的を明確にする)	4観点が自分の腑に落ちるためのワーク 就職に必要となる「他者・無形」の視点をより深める
第7回	長期目的・目標③ (習慣形成)	「オープンウィンドウ64」で目標を達成するために必要な行動を明確にし、ルーティン行動とする
第8回	長期目的・目標④ (個人理念)	仕事における理念を考える。自分自身を見つめ直すことにより、それらを文章化することで、履歴書を書ける力を養う
第9回	アンガーマネジメント	怒りに対する正しい理解と自己理解の発展
第10回	就職力UPセミナー	履歴書作成から面接当日まで
第11回	印象力UPセミナー	相手に与える印象を積極的にコーディネートできるようになる
第12回	医療人としての心構え	医療人として大切なこと
第13回	医療人としての心構え	医療人として大切なこと
第14回	がん医療について	癌患者の現状と最先端治療
第15回	就職力UPセミナー まとめ	社会性向上セミナーⅡの振り返り(発表)

評価方法	それぞれのワークで実施した資料をまとめ、ポートフォリオを作成し、成果物とする。 出席状況、授業態度、レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする
教科書	なし
参考書	なし

作成日：令和 6年 4月 1日

作業療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	統計学	授業の形態	講義		使用教室	講堂
講師	高元 宗一郎 先生		一般			

教育目標	統計の基本的な考え方を理解し、表計算ソフトを利用して目的の統計量を計算し、目的に応じた表現方法を用いることができる。分析するデータに応じた仮説検定を正しく選択することができる。また、リハビリテーション分野での統計解析を行うことができる。
------	--

回	主題	内容
第1回	表計算ソフトの操作 統計学入門	表計算ソフトの操作確認 統計学とは、記述統計と推測統計(第1章)
第2回	統計データの種類とまとめ方	統計データの種類(第2章)
第3回	統計データの種類とまとめ方	統計データのまとめ方(第2章)
第4回	統計データの種類とまとめ方	統計データのグラフ表示(第2章)
第5回	確率と分布	確率、順列、組合せ、確率分布(第3章)
第6回	母集団・標本と推定	母集団と標本、推定(第4章))
第7回	各種検定	検定の基礎知識(第5章)
第8回	各種検定	1群の標本の検定(第5章)
第9回	各種検定	2群の標本の検定(第5章)
第10回	各種検定	3群以上の標本の検定(第5章)
第11回	各種検定	比率の検定(第5章)
第12回	各種検定	相関係数の検定(第5章)
第13回	リハビリテーション分野 の統計学	総合問題
第14回	リハビリテーション分野 の統計学	総合問題
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	レポート提出状況及び期末試験を総合的に判定し、60点以上を単位認定とする。
教科書	『系統看護学講座 基礎分野 統計学(第7版)』高木晴良 著 医学書院
参考書	『統計学入門』 東京大学教養学部統計学教室 東京大学出版会

成日：令和6年4月1日

作業療法学科	3学年	後期	単位数	1	時間数	30
科目名	生理学演習	授業の形態	講義／演習		使用教室	講堂
講師	外部講師／石川貴史		一般			

教育目標	1) リハビリテーションにおける薬理学・栄養学について理解する。 2) X線、CT、MRIの基礎を理解する。 3) 吸引の方法を理解する。 4) AEDの操作方法について理解する。 5) 心電図、スパイロメーター、筋電図など、定番の実習はPT/OTの必須項目で臨床実習に直結するため機器の使い方やその意味を理解してもらう。
------	---

回	主題	内容
第1回	薬理学／臨床薬理学	薬を理解するために必要な基礎知識／薬の概念と分類／薬の作用はどのように発揮されるか
第2回	薬理学／臨床薬理学	薬の作用に影響する因子／薬の使い方／各疾患の薬物療法
第3回	栄養学	主な病態の栄養管理／静脈・経腸栄養法
第4回	栄養学	リハビリテーションと栄養
第5回	画像の特徴と原理	単純X線、CT、MRI画像の特徴を基本原理を理解する。
第6回	単純X線、CT、MRI画像正常画像①	画像上での基本解剖と診かたを理解する。(頭部・頸部)
第7回	単純X線、CT、MRI画像正常画像②	画像上での基本解剖と診かたを理解する。(胸部・腹部・骨盤部)
第8回	単純X線、CT、MRI画像正常画像③	画像上での基本解剖と診かたを理解する。(骨軟部・脊椎・四肢関節)
第9回	救急救命 AED	
第10回	救急救命 AED	
第11回	吸引	
第12回	吸引	
第13回	実習Ⅰ	心電図、スパイロメーター、パルスオキシメータ、ハンドヘルドダイナモメータ
第14回	実習Ⅱ	心電図、スパイロメーター、パルスオキシメータ、ハンドヘルドダイナモメータ
第15回	まとめ	

評価方法	定期試験、実習レポートや授業態度などを総合して60点以上を合格とする。
教科書	ケアに使える画像のみかた
参考書	

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	作業療法管理学	授業の形態	講義		使用教室	OT3
講師	赤川 精彦 先生／堀下 誉晃 先生		一般			

教育目標	質の高いチーム医療を提供できるよう、社会保障制度の理解やその変化に素早く適応する対応力と、組織運営に関するマネジメント能力、また職業倫理や理学療法教育について学習する。
------	--

回	主題	内容
第1回	管理とは	医療・看護・リハビリテーションにおける管理学
第2回	管理/運営	診療報酬について
第3回	管理/運営	診療報酬と人件費
第4回	リスク管理について	医療の質的保証／医療の安全性／ヒューマンエラー
第5回	リスク管理について	理学療法・作業療法で起こり得る有害事象／クレーム対応
第6回	疾患別マネジメント	疾患別リスクマネジメント
第7回	職業倫理	職業倫理について
第8回	組織運営とマネジメント	病院分類と組織／組織と関連法規
第9回	組織運営とマネジメント	業務管理
第10回	組織運営とマネジメント	情報管理
第11回	キャリアデザイン	理学療法士・作業療法士のキャリアデザイン
第12回	社会保障制度とマネジメント	社会保障制度とは／介護保険とは
第13回	管理/運営	介護保険関連施設における管理・運営
第14回	疾患別・病期別マネジメント	介護老人保健施設におけるマネジメント
第15回	まとめ	本講義のまとめ

評価方法	定期試験、実習レポートや授業態度などを総合して60点以上を合格とする。
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学 中山書店
参考書	

作業療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	作業療法評価学Ⅲ		授業形態	演習・講義	使用教室	治療室1
講師	石川 貴史	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	①作業療法における評価の意義・目的を知る。 ②各検査・測定ごとに評価の目的、評価方法を学ぶ。 ③評価測定技術を習得、学習し、測定ができるようになる。 ④OSCEを通して臨床技能を磨く
------	--

回	主題	内容
第1回	感覚検査	オリエンテーション、感覚の概要
第2回	感覚検査	感覚検査実技(表在感覚)
第3回	感覚検査	深部感覚、複合感覚について
第4回	感覚検査	深部感覚、複合感覚検査実技
第5回	感覚検査	感覚検査 振り返り
第6回	脳卒中の麻痺側運動機能評価	Brunnstrom Recovery Stage
第7回	脳卒中の麻痺側運動機能評価	Brunnstrom Recovery Stage
第8回	脳卒中の麻痺側運動機能評価	Brunnstrom Recovery Stage
第9回	脳卒中の麻痺側運動機能評価	Brunnstrom Recovery Stage
第10回	脳卒中の麻痺側運動機能評価	Brunnstrom Recovery Stage 振り返り
第11回	脳卒中の麻痺側運動機能評価	SIAS
第12回	姿勢バランス検査	姿勢バランス検査について(立ち直り、平衡反応)
第13回	姿勢バランス検査	姿勢バランス検査について(立ち直り、平衡反応)
第14回	姿勢・バランス検査	(FR、TUG)
第15回	姿勢・バランス検査	(FR、TUG)
第16回	知能検査	コース立方体組み合わせ検査
第17回	上肢機能検査	STEF
第18回	上肢機能検査	STEF
第19回	上肢機能検査	STEF 振り返り
第20回	協調性検査	協調運動障害
第21回	協調性検査	協調性検査
第22回	協調性検査	協調性検査
第23回	まとめ	臨床技能のまとめ

評価方法	小テスト2割、実技試験と定期試験で8割とし、総合で6割以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とする。。また、実技試験・定期試験どちらか一方が6割未満の場合は両者再試験を実施する。
教科書	・編集 岩崎テル子他 OT標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院 ・編集 金田嘉清他 PTOTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助、検査測定編 ・編集 金田嘉清他 PTOTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力障害への介入編
参考書	著 田崎 他ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 病気が見える 7 脳・神経 第2版



作業療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	臨床技能演習Ⅲ		授業形態	演習・講義	使用教室	治療室1
講師	石川貴史	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	・OSCE(客観的臨床能力試験)を通して、実際の臨床場面で必要な臨床技能を身に付ける。
------	---

回	主題	内容
第1回	耐久性評価	6分間歩行訓練
第2回	姿勢分析	姿勢評価
第3回	動作分析	基本動作の分析
第4回	動作分析	基本動作の分析
第5回	関節可動域運動	OSCE:肩屈曲
第6回	関節可動域運動	OSCE:肩屈曲
第7回	筋力増強運動	OSCE:股関節外転(☆)
第8回	筋力増強運動	OSCE:股関節外転(☆)
第9回	部分荷重練習	部分荷重とは
第10回	部分荷重練習	OSCE:部分荷重
第11回	動作介入	起き上がり動作
第12回	動作介入	起き上がり動作
第13回	動作介入	起立着座動作
第14回	動作介入	起立着座動作
第15回	動作介入	ADL介入
第16回	動作介入	ADL介入
第17回	動作介入	ADL介入
第18回	動作介入	ADL介入
第19回	動作介入	移乗動作(☆)
第20回	動作介入	移乗動作(☆)
第21回	動作介入	車椅子駆動(☆)
第22回	動作介入	車椅子駆動(☆)
第23回	まとめ	まとめ

評価方法	小テスト2割、実技試験と定期試験で8割とし、総合で6割以上を合格とする。実技試験が未受験の場合は不合格とし、定期試験が6割未満の場合は実技試験の再試験を実施する。
教科書	・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編
参考書	・病気が見える⑦ 脳・神経 第7版

作業療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	精神科評価学		授業形態	講義	使用教室	OT3
講師	津留 崙 衣里子	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験を通して、精神科医療の現場で実際に行われている評価と考え方について講義を行う。			

教育目標	模擬症例を通して精神科評価の項目、方法について学ぶ。 臨床実習におけるチェックリストの内容とすべきことを知る。 各種評価法について基礎的な知識を学ぶ。
------	---

回	主題	内容
第1回	精神機能評価の基礎理論	オリエンテーション 精神科の歴史・法律
第2回	精神機能評価の基礎理論	評価の全体像
第3回	精神機能評価表	発達の技法と集団関係技能 面接法(面接場面の設定)
第4回	精神機能評価表	面談場面の紹介・留意点
第5回	精神機能評価表	HDS-R・MMSE(評価の仕方、実践)
第6回	精神機能評価表	HDS-R・MMSE(評価の仕方、実践) 減点項目から考えられる日常生活上での支障を検討
第7回	精神機能評価表	MMSE(評価の仕方、実践) 減点項目から考えられる日常生活上での支障を検討
第8回	精神機能評価表	評価表の詳細を知る(スライド作成)
第9回	精神機能評価表	評価表の詳細を知る(スライド作成)
第10回	精神機能評価表	評価表 発表
第11回	精神機能評価表	評価表 発表 国家試験問題
第12回	精神機能評価表	COPM(興味関心チェックシート)について・注意点
第13回	精神機能評価表	COPMの実践
第14回	精神機能評価表	COPMを基にICF作成
第15回	精神機能評価表	COPMを基にICF作成 まとめ

評価方法	定期試験(60点以上を合格とする)にて評価を行う。
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学 第3版
参考書	標準理学療法学・作業療法学 精神医学 作業療法全書5 精神障害

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	3学年	通年(前期)	単位数	4(2)	時間数	60(30)
科目名	基礎作業学	授業の形態	演習/講義	使用教室	手工芸室	
講師	亀澤 康一郎	一般				

教育目標	作業活動を体験し、臨床で用いる際の基本的な知識と技術を身につける。
------	-----------------------------------

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	作業活動について・精神科での作業療法・授業課題について
第2回	タイル細工①	モザイクタイルを用いたタイル細工、作業説明、デザイン決め「コースター」
第3回	タイル細工②	コースター製作(タイル貼付け)
第4回	タイル細工③	コースター製作(目地埋め作業)、作業の振り返り、作業分析 作品・レポート提出
第5回	マクラメ①	作業説明、結び方の習得、キーホルダー製作
第6回	マクラメ②	作品製作
第7回	マクラメ③	作業の振り返りと作業分析レポート提出
第8回	革細工①	説明「キーケース」デザイン決め
第9回	革細工②	カービング もしくは スタンピング
第10回	革細工③	染色、艶出し、金具付け
第11回	革細工④	染色、艶出し、金具付け
第12回	革細工⑤	革細工 振り返りと作業分析、作品・レポート提出
第13回	作業手順の説明と指導法①	紙風船作りを用いて
第14回	作業手順の説明と指導法②	介入方法の振り返り、判別にて発表、レポート提出
第15回	前期振り返り	

評価方法	2/3以上の出席を条件とし、作品・レポート提出・定期試験で60%以上の得点を持って履修を認定する
教科書	医歯薬出版株式会社：つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル
参考書	協同医書出版：作業療法学全書 第2巻 基礎作業学 改訂第3版 三輪書店：精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 第3版

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	3学年	通年(後期)	単位数	4(2)	時間数	60(30)
科目名	基礎作業学		授業の形態	演習/講義	使用教室	手工芸室
講師	亀澤 康一郎		一般			

教育目標	作業活動を体験し、臨床で用いる際の基本的な知識と技術を身につける。
------	-----------------------------------

回	主題	内容
第16回	紙細工 ①	特徴と種類について
第17回	紙細工 ②	ペーパークイニング・紋切りを用いて「季節のカードを作ろう」
第18回	紙細工 ③	ペーパークイニング・紋切りを用いて「季節のカードを作ろう」
第19回	紙細工 ④	カード作りの 作品・作業分析レポート
第20回	書道・ペン習字①	書道 もしくは 書写
第21回	書道・ペン習字②	障害を想定して書道もしくは書写の作業環境を整えよう
第22回	書道・ペン習字③	作品提出、作業分析レポート
第23回	個人作業、 集団作業について	特徴と効果、レクリエーションの方法について説明「ビンゴゲーム」
第24回	集団活動 「ビンゴゲーム」①	レクリエーション実施
第25回	集団活動 「ビンゴゲーム」②	手順を変更し、レクリエーション実施
第26回	「ビンゴゲーム」	手順別の比較して変化する治療的要素を考え、作業分析
第27回	集団活動 ゲーム「ポッチャ」①	レクリエーション実施
第28回	ゲーム「ポッチャ」②	レクリエーション実施
第29回	集団活動ポッチャの 振り返り	レポート提出
第30回	後期振り返り	

評価方法	2/3以上の出席を条件とし、作品・レポート提出・定期試験で60%以上の得点を持って履修を認定する
教科書	医歯薬出版株式会社：つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル
参考書	医学書院：基礎作業学 メジカルビュー社：作業学 改定第2版

作業療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	45
科目名	神経障害作業療法 I		授業形態	講義・演習	使用教室	OT3・治療室2
講師	石田恭涼	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での経験を活かし講義を実施する。			

教育目標	1. 各疾患における症状や病態に対する禁忌や留意点、治療的介入の概要が把握できる。 2. 臨床実習に臨むための基礎的な知識、評価法、姿勢を身につける。
------	--

回	主題	内容
第1回	治療学概論	身体障害とは、身体障害作業療法のプロセス
第2回	治療学概論	身体障害作業療法の治療理論
第3回	疾患別作業療法(中枢神経系)	脳血管疾患(疾患概要)
第4回	疾患別作業療法(中枢神経系)	脳血管疾患(疾患概要)
第5回	疾患別作業療法(中枢神経系)	脳血管疾患(評価)
第6回	疾患別作業療法(中枢神経系)	脳血管疾患(評価)
第7回	疾患別作業療法(中枢神経系)	脳血管疾患(評価)
第8回	疾患別作業療法(中枢神経系)	脳血管疾患(治療)
第9回	疾患別作業療法(中枢神経系)	脳血管疾患(治療)
第10回	疾患別作業療法(中枢神経系)	脳血管疾患(治療)
第11回	疾患別作業療法(中枢神経系)	脳血管疾患(まとめ)
第12回	疾患別作業療法(中枢神経系)	脳血管疾患(まとめ)
第13回	疾患別作業療法(中枢神経系)	頭部外傷
第14回	疾患別作業療法(中枢神経系)	頭部外傷
第15回	疾患別作業療法(中枢神経系)	頭部外傷
第16回	疾患別作業療法(中枢神経系)	頭部外傷
第17回	疾患別作業療法(中枢神経系)	パーキンソン病
第18回	疾患別作業療法(中枢神経系)	パーキンソン病
第19回	疾患別作業療法(変性疾患、難病)	パーキンソン病
第20回	疾患別作業療法(変性疾患、難病)	パーキンソン病
第21回	疾患別作業療法(変性疾患、難病)	パーキンソン病
第22回	疾患別作業療法(変性疾患、難病)	パーキンソン病
第23回	まとめ	まとめ

評価方法	定期試験8割、小テスト2割とし、総合で6割以上を合格とする。
教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版
参考書	病気がみえる⑦ 脳・神経 作業療法ガイドライン

作業療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	神経障害作業療法Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	OT3
講師	石川貴史	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集の意義、目的を知り、記録を書けるようになる。</li> <li>・評価の列挙、問題点、ゴールの考え方について知る。</li> <li>・基本的な臨床技能をマスターする。</li> <li>・事例を通して実践的な認知スキルのグループワーク及びロールプレイ。</li> </ul>
------	--

回	主題	内容
第1回	疾患別作業療法	脊髄損傷
第2回	疾患別作業療法	脊髄損傷
第3回	疾患別作業療法	脊髄小脳変性症
第4回	疾患別作業療法	脊髄小脳変性症
第5回	疾患別作業療法	筋萎縮性側索硬化症
第6回	疾患別作業療法	筋萎縮性側索硬化症
第7回	疾患別作業療法	ギラン・バレー症候群
第8回	疾患別作業療法	ギラン・バレー症候群
第9回	疾患別作業療法	多発性硬化症
第10回	疾患別作業療法	多発性硬化症
第11回	疾患別作業療法	多発性筋炎・皮膚筋炎
第12回	疾患別作業療法	多発性筋炎・皮膚筋炎
第13回	疾患別作業療法	筋ジストロフィー
第14回	疾患別作業療法	筋ジストロフィー
第15回	疾患別作業療法	重症筋無力症

評価方法	小テスト2割、定期試験8割で算出し、60点以上で合格とする。
教科書	標準作業療法 専門分野 身体機能作業療法学 第4版
参考書	病気が見える⑦ 脳・神経

作業療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	運動器障害作業療法		授業形態	講義	使用教室	OT3
講師	岡 大樹	実務経験有	作業療法士として医療施設で経験があり、臨床での実務経験を講義に反映させている。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各疾患における症状や病態に対する禁忌や留意点、治療的介入の概要が把握できる。</li> <li>臨床実習に臨むために知識、評価法、姿勢を身に付ける。</li> </ul>
------	--

回	主題	内容
第1回	疾患別作業療法(上肢の外科)	上肢骨折(総論)
第2回	疾患別作業療法(上肢の外科)	上腕骨骨折
第3回	疾患別作業療法(上肢の外科)	前腕骨骨折
第4回	疾患別作業療法(手の外科)	前腕骨骨折
第5回	疾患別作業療法(手の外科)	前腕骨骨折(手指骨折)
第6回	疾患別作業療法(手の外科)	手指腱損傷(修復過程、治療)
第7回	疾患別作業療法(手の外科)	手指腱損傷(評価) 上肢末梢神経障害①(総論)
第8回	疾患別作業療法(手の外科)	上肢末梢神経障害②
第9回	疾患別作業療法(手の外科)	上肢末梢神経障害③
第10回	疾患別作業療法(腱板損傷)	腱板損傷
第11回	疾患別作業療法(下肢)	下肢骨折(大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折)
第12回	疾患別作業療法(下肢)	下肢骨折(大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折) 変形性関節症
第13回	疾患別作業療法(関節疾患)	変形性膝関節症
第14回	疾患別作業療法(関節疾患)	変形性関節症(ヘバーデン結節、ブシャール結節) 切断
第15回	熱傷、まとめ	熱傷

評価方法	定期試験については、60点以上を合格とする。 評価の割合は、小テストなど総合的に判定する。
教科書	病気が見える⑪ 運動器・整形外科
参考書	標準整形外科学

作業療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	高次脳機能障害作業療法	授業の形態	講義		使用教室	OT3
担当講師	筒井 裕介		一般			

教育目標	高次脳機能障害の症状理解と評価・訓練の実際を知る。
------	---------------------------

回	主題	内容
第1回	概論	オリエンテーション
第2回	解剖と画像	脳解剖、画像の見方
第3回	神経機能	ニューラルネットワークについて
第4回	注意	症状、出現メカニズム、評価
第5回	記憶	症状、出現メカニズム、評価
第6回	感情	症状、出現メカニズム、評価
第7回	失認①	症状、出現メカニズム、評価
第8回	失認②	症状、出現メカニズム、評価
第9回	評価と治療	評価の体験、治療検討
第10回	失行症	症状、出現メカニズム、評価
第11回	評価と治療	評価の体験、治療検討
第12回	失語症	症状、出現メカニズム、評価
第13回	前頭葉関連	症状、出現メカニズム、評価
第14回	右脳と左脳	脳の側性化、治療で考えること
第15回	まとめ	全体のまとめ、補足

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	高次脳機能障害学、医歯薬出版株式会社 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 高次脳機能障害作業療法学 改訂第2版
参考書	



作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	3学年	通期(前期)	単位数	3	時間数	90(45)
科目名	精神障害作業療法		授業形態	講義	使用教室	OT3
講師	田才 葵	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験を通して、実習や医療現場で知識を活かせるように、実際の現場での対応とその考え方を伝える。			

教育目標	精神障害分野における作業療法の役割について学ぶ力をつける。 精神障害者への作業療法の実践について学び、具体的アプローチについて考える。 実習において最低限の評価が可能となること。 体験実習を通して精神科施設の作業療法について確認する。
------	--

回	主題	内容
第1回	振り返り	オリエンテーション 講義資料作成(グループ)
第2回	振り返り	講義資料作成(グループ)
第3回	総論	精神障害の捉え方
第4回	総論	個人作業療法と集団作業療法
第5回	総論	個人作業療法と集団作業療法 集団の治療因子
第6回	総論	治療関係 自己の治療的応用
第7回	総論	パラレルな場におけるトポスの利用 心理教育ミーティングとは
第8回	器質性精神障害	学生発表(器質性精神障害:4大認知症)
第9回	器質性精神障害	アルツハイマー型・脳血管性認知症の特徴と作業療法
第10回	器質性精神障害	前頭側頭型・レビー小体型認知症の特徴と作業療法
第11回	器質性精神障害	学生発表(中核症状・周辺症状について) 中核症状と心理的症状・治療の考え方と環境調整
第12回	統合失調症	学生発表(統合失調症)
第13回	統合失調症	作業療法の目的(各時期に応じた作業療法の目的)
第14回	統合失調症	急性期・亜急性期の捉え方と作業療法
第15回	統合失調症	回復期・維持期の捉え方と作業療法
第16回	統合失調症	国家試験問題・まとめ
第17回	気分障害	学生発表(気分障害:うつ病・躁うつ病)
第18回	気分障害	疾患の特徴 作業療法
第19回	気分障害	評価尺度 身体症状 認知行動療法
第20回	気分障害	SST モデリング シェービング 国家試験問題・まとめ
第21回	摂食障害	学生発表(神経性無食欲症・神経性大食症)
第22回	摂食障害	捉え方と治療法
第23回	摂食障害	国家試験問題・まとめ

評価方法	定期試験(60点以上を合格とする)で判定する。
教科書	協同書出版:作業療法全書5 精神障害 メジカルビュー:作業療法学ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学
参考書	医学書院:標準理学療法学・作業療法学 精神医学

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	3学年	通期(後期)	単位数	3	時間数	90(45)
科目名	精神障害作業療法		授業形態	講義	使用教室	OT3
講師	津留 寄 衣里子	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験を通して、実習や医療現場で知識を活かせるように、実際の現場での対応とその考え方を伝える。			

教育目標	精神障害分野における作業療法の役割について学ぶ力をつける。 精神障害者への作業療法の実践について学び、具体的アプローチについて考える。 実習において最低限の評価が可能となること。 体験実習を通して精神科施設の作業療法について確認する。
------	--

回	主題	
第1回	振り返り	講義資料作成(グループ)
第2回	振り返り	講義資料作成(グループ)
第3回	神経症性障害	学生発表(不安障害・パニック障害・強迫性障害)
第4回	神経症性障害	学生発表(PTSD・解離性障害・身体表現性障害)
第5回	神経症性障害	治療の考え方・作業療法
第6回	神経症性障害	治療の考え方・作業療法
第7回	神経症性障害	国家試験問題・まとめ
第8回	てんかん	学生発表(てんかん)
第9回	てんかん	治療の考え方・作業療法
第10回	てんかん	国家試験問題・まとめ
第11回	パーソナリティ障害	学生発表(パーソナリティ障害)
第12回	パーソナリティ障害	疾患の特徴 作業療法
第13回	パーソナリティ障害	国家試験問題・まとめ
第14回	依存症	学生発表(アルコール依存症・薬物依存症)
第15回	依存症	疾患の特徴 国家試験問題・まとめ
第16回	心理発達の障害	学生発表(学習障害・自閉症スペクトラム)
第17回	心理発達の障害	疾患の特徴 作業療法
第18回	心理発達の障害	疾患の特徴 作業療法
第19回	心理発達の障害	国家試験問題・まとめ
第20回	疾患と作業療法	地域で実施されているサービス (ACT、訪問サービス、精神科デイケア、手帳、年金 障害者総合支援法、就労支援、入院形態、医療観察法)
第21回	疾患と作業療法	
第22回	疾患と作業療法	
第23回	まとめ	総括と確認

評価方法	定期試験(60点以上を合格とする)で判定する。
教科書	協同書出版:作業療法全書5 精神障害 メジカルビュー:作業療法学ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学
参考書	医学書院:標準理学療法学・作業療法学 精神医学

作業療法学科	3学年	通期(前期)	単位数	2	時間数	60(30)
科目名	発達障害作業療法	授業の形態	講義		使用教室	OT3/治療室2
担当講師	濱本 孝弘 先生		一般			

教育目標	粗大運動や巧緻動作の発達を学習する中で、姿勢と運動の関係や運動に関する基礎知識を養う。協調された運動をベースにいろいろな経験を蓄積し、環境に適応していくことで、脳性麻痺児(者)に代表される発達障がい児(者)が社会に参加する術を身につけるための支援の方向性を学習する。また、発達障がい児(者)の生涯発達を学習し、各ライフステージにおける作業療法士のかかわりについて学び、生活の質、人生の質について考える機会を得る。
------	--

## 【前期】

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション・発達障害総論	発達障害の概念及び対象疾患 発達障害に対する作業療法の歴史
第2回	発達障害総論	発達障害児の理解(障害を持つということ) 自立とは何かを考える
第3回	正常発達総論	胎児期の発達・反射反応について
第4回	粗大運動発達Ⅰ (Supineの発達)	新生児～6ヶ月までの背臥位の発達の变化と特徴
第5回	粗大運動発達Ⅱ (Proneの発達)	新生児～6ヶ月までの腹臥位の発達の变化と特徴
第6回	粗大運動発達Ⅲ (座位・立位の発達)	座位とは？その機能的意義・必要条件・引きおこしの特徴など
第7回	粗大運動発達まとめ	粗大運動(Supine・Prone)の発達を体で表現する
第8回	粗大運動発達まとめ	粗大運動発達の臨床の応用
第9回	上肢機能の発達①	手とは、系統発生的にみた手、手の機能と探索活動(感覚器官としての手)について理解する。
第10回	上肢機能の発達②	ヒトがものを操作することとはどういうことなのか？について考え、上肢機能の評価の観点の一助とする。
第11回	視覚機能の発達	解剖と機能・視覚の発達・視覚の異常および評価について
第12回	ADLの発達	母子相互関係から見るADLの獲得について
第13回	知的機能の発達	ピアジェの発達理論・その他の発達理論について
第14回	知的機能の発達	ピアジェの発達理論・その他の発達理論について
第15回	発達の評価	各評価バッテリー、解釈について

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	「イラストでわかる 発達障害の作業療法」 「発達障害を持つ子どもと成人家族のためのADL」 「写真で見る乳児の運動発達」
参考書	脳性麻痺児の家庭療育 感覚統合Q&A 発達障害児の新しい療育

作業療法学科	3学年	通期(後期)	単位数	2	時間数	60(30)
科目名	発達障害作業療法	授業の形態	講義		使用教室	OT3/治療室2
担当講師	濱本 孝弘 先生		一般			

教育目標	粗大運動や巧緻動作の発達を学習する中で、姿勢と運動の関係や運動に関する基礎知識を養う。協調された運動をベースにいろいろな経験を蓄積し、環境に適応していくことで、脳性麻痺児(者)に代表される発達障がい児(者)が社会に参加する術を身につけるための支援の方向性を学習する。また、発達障がい児(者)の生涯発達を学習し、各ライフステージにおける作業療法士のかかわりについて学び、生活の質、人生の質について考える機会を得る。
------	--

## 【後期】

回	主題	内容
第1回	発達障害の作業療法	発達障害に対する作業療法について
第2回	脳性麻痺総論	発生率・分類・各タイプの特徴と脳性まひ児の病態生理
第3回	脳性麻痺各論(痙直型)	痙直型脳性麻痺児における問題と対策
第4回	脳性麻痺各論(アトーゼ型)	アトーゼ型脳性麻痺児における問題と対策
第5回	脳性麻痺児に対する作業療法	脳性麻痺児・者の作業療法のまとめ
第6回	知的障害児の評価と作業療法	知的障害とは、その評価について
第7回	知的障害児の評価と作業療法	知的障害の作業療法
第8回	重症心身障害児・者の評価と作業療法	重症心身障害児・者とは、その理解の過程
第9回	重症心身障害児・者の評価と作業療法	重症心身障害児・者の作業療法アプローチの紹介
第10回	自閉症スペクトラム児の作業療法	自閉症スペクトラムとは
第11回	自閉症スペクトラム児の作業療法	自閉症スペクトラム児への評価とアプローチの紹介
第12回	筋ジストロフィーの作業療法	筋ジストロフィーとは その評価とアプローチの紹介
第13回	摂食嚥下機能へのアプローチ	摂食に関与する口腔機能の解剖学的知識。
第14回	摂食嚥下機能へのアプローチ	実技
第15回	発達障害への作業療法まとめ	ライフステージを考慮した作業療法を考える、家庭や学校への評価支援

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	「イラストでわかる 発達障害の作業療法」 「発達障害を持つ子どもと成人家族のためのADL」 「写真で見る乳児の運動発達」
参考書	脳性麻痺児の家庭療育 感覚統合Q&A 発達障害児の新しい療育

作業療法学科	3学年	前期	単位数	2	時間数	30
科目名	高齢期障害作業療法		授業形態	講義	使用教室	OT3
講師	久保与広	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、高齢期に関する知識と経験を踏まえ授業を実施する。			

教育目標	授業を通して以下のことを理解し、説明することができるレベルになることを目標とする。 高齢社会を理解し、問題点を述べるができる。 高齢者の特徴を理解し、問題点を述べるができる。 高齢期作業療法の実践内容を述べるができる。
------	--

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション 高齢期の基礎	高齢者の定義、高齢社会
第2回	高齢期の基礎	高齢者の時代背景 高齢者の課題
第3回	高齢期の基礎	社会制度
第4回	高齢期の基礎	高齢者の作業療法
第5回	高齢期の基礎	高齢期の一般的特徴①(生理的・身体的特徴)
第6回	高齢期の基礎	高齢期の一般的特徴②(老年症候群)
第7回	高齢期の基礎	高齢期の特徴③(精神的/心理的)
第8回	高齢期の基礎	高齢期に多い疾患(循環器疾患、呼吸器疾患)
第9回	高齢期の基礎	高齢期に多い疾患(神経疾患)
第10回	高齢期の基礎	高齢期に多い疾患(運動器疾患)
第11回	高齢期の基礎	高齢期に多い疾患(代謝性疾患・精神疾患)
第12回	高齢期の基礎	認知症について
第13回	高齢期作業療法の実践	高齢期作業療法の実践 認知症のケースを通じた理解
第14回	高齢期作業療法の実践	認知症の評価
第15回	まとめ	まとめ

評価方法	定期試験結果、その他課題を合わせて60点以上で合格とする
教科書	標準作業療法学 『高齢期作業療法学』第3版 松房利憲他
参考書	

作業療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	日常生活活動Ⅱ		授業形態	講義	使用教室	OT3
講師	高山 翔平	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験をADLの考え方、評価方法の視点から授業に反映している。			

教育目標	1.各疾患の概要と特徴を理解し、ADL動作へ繋げていく 2.各疾患のADL動作を理解し、対象者へアプローチができるようになる 3.福祉用具・自助具の使用法を理解し、各疾患ADLへ繋げていく
------	--

回	主題	内容
第1回	ADL各論	脳血管障害のADL①(食事・整容)
第2回	ADL各論	脳血管障害のADL②(更衣・トイレ動作)
第3回	ADL各論	脳血管障害のADL③(整容・入浴動作)
第4回	ADL各論	脳血管障害のADL④(起居・移乗動作)
第5回	ADL各論	脳血管障害のADLまとめ
第6回	ADL各論	脊髄損傷の概要(動きの特徴)
第7回	ADL各論	脊髄損傷のADL①(起居・移乗動作)
第8回	ADL各論	脊髄損傷のADL②(セルフケア動作など)
第9回	ADL各論	脊髄損傷のADL・IADL
第10回	ADL各論	関節リウマチのADL・IADL
第11回	ADL各論	パーキンソン病の概要・特徴
第12回	ADL各論	パーキンソン病のADL
第13回	ADL各論	認知症のADL
第14回	ADL各論	SCD・ALSの概要・特徴・ADL
第15回	総合理解	まとめ・国家試験解説

評価方法	定期試験で60%以上の得点を持って履修を認定する
教科書	羊土社『PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版』柴 喜崇 三輪書店『中枢神経系疾患に対する作業療法』山本 伸一
参考書	文光堂『脊髄損傷理学療法マニュアル』岩崎 洋

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	3学年	通年(前期)	単位数	4	時間数	60(30)
科目名	義肢装具学	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚
担当講師	野中 昭彦 先生		一般			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義肢装具の理解</li> <li>・義肢装具の種類、疾患との関係の理解</li> </ul>
------	--

## 【前期】

回	主題	内容
第1回	装具総論	装具とは？
第2回	体幹装具(1)	体幹装具とは？
第3回	体幹装具(2)	体幹装具について知ろう
第4回	体幹装具(3)	装具の種類と疾患との関係
第5回	体幹装具(4)	装具の種類と疾患との関係
第6回	上肢装具(1)	上肢装具とは？
第7回	上肢装具(2)	上肢装具について知ろう
第8回	上肢装具(3)	装具の種類と疾患との関係
第9回	上肢装具(4)	装具の種類と疾患との関係
第10回	下肢装具(1)	下肢装具とは？
第11回	下肢装具(2)	下肢装具について知ろう
第12回	下肢装具(3)	装具の種類と疾患との関係
第13回	下肢装具(4)	装具の種類と疾患との関係
第14回	車イス	車イスについて知ろう
第15回	装具まとめ	まとめ

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	義肢装具のチェックポイント 第7版 医学書院
参考書	なし

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	3学年	通年(後期)	単位数	4	時間数	60(30)
科目名	義肢装具学	授業の形態	講義		使用教室	視聴覚室/講堂
担当講師	金子 凱 先生				一般	

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義肢装具の理解</li> <li>・義肢装具の種類、疾患との関係の理解</li> </ul>
------	--

【後期】

回	主題	内容
第1回	義肢総論	義肢とは？
第2回	義手(1)	義手とは？
第3回	義手(2)	義手とは？
第4回	義手(3)	義手の種類とチェックポイント等
第5回	義手(4)	義手の種類とチェックポイント等
第6回	義手(5)	義手の種類とチェックポイント等
第7回	義足(1)	義足とは
第8回	義足(2)	義足とは
第9回	義足(3)	義足の種類とチェックポイント等
第10回	義足(4)	義足の種類とチェックポイント等
第11回	義足(5)	義足の種類とチェックポイント等
第12回	義肢装具体験	体験実習
第13回	義肢装具体験	体験実習
第14回	義肢まとめ	まとめ
第15回	義肢まとめ	まとめ

評価方法	定期試験、出席状況を踏まえて60点以上を合格とする。
教科書	義肢装具のチェックポイント 第7版 医学書院
参考書	なし



作業療法学科	3学年	後期	単位数	2単位	時間数	30
科目名	内部障害作業療法		授業形態	講義	使用教室	OT3
講師	久保 与広	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、臨床での実務経験を講義に反映している。			

教育目標	内部障害作業療法学についての知識、評価、実践指導についての理解を深める。 内部障害についての病態を理解し、各疾患の症状や留意点が理解できる。
------	---

回	主題	内容
第1回	バイタルサインとリスク管理	バイタルサインの目的を理解し、リスク管理の方法を理解する。
第2回	吸引	吸引の手順、アセスメントを理解し、リスクを把握する。
第3回	呼吸器疾患①	疾患の概要と評価
第4回	呼吸器疾患②	作業療法プログラム
第5回	心疾患①	疾患の概要と評価
第6回	心疾患②	作業療法プログラム
第7回	サルコペニア①	疾患の概要と評価
第8回	サルコペニア②	作業療法プログラム
第9回	糖尿病①	疾患の概要と評価
第10回	糖尿病②	作業療法プログラム
第11回	腎不全①	疾患の概要と評価
第12回	腎不全②	作業療法プログラム
第13回	がん①	疾患の概要と評価
第14回	がん②	作業療法プログラム
第15回	まとめ	

評価方法	小テスト、定期試験をもって総合的に判断し、60点以上を合格とする。
教科書	PT・OTビジュアルテキスト身体障害作業療法2 内部疾患編
参考書	解剖学、生理学、内科学、病理学の各教科書

作業療法学科	3学年	後期	単位数	2	時間数	30
科目名	地域作業療法学		授業形態	講義	使用教室	OT3
講師	木村 伸一郎 先生		一般			

教育目標	1.地域リハビリテーション・地域作業療法の概要を理解する 2.地域における作業療法の役割について理解する 3.地域作業療法に関わる関連法規・サービスについて理解する 4.地域における各領域の実践事例を通し、地域作業療法を理解する 5.地域における社会資源の活用を理解する
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション・地域リハビリテーションについて
第2回	地域リハ・地域作業療法概要	地域作業療法の基盤と背景について
第3回	生活障害	生活障害の捉え方(ICIDH、ICF)
第4回	関連法規	地域作業療法を支える制度・支援・連携①(制度と施策のつながり)
第5回	関連法規	地域作業療法を支える制度・支援・連携について②(社会生活支援を理解)
第6回	関連法規	地域作業療法を支える制度・支援・連携について③(他職種の連携と協働)
第7回	関連法規	介護保険制度について
第8回	地域作業療法	地域作業療法の枠組み・住環境と地域づくり
第9回	地域作業療法	地域における作業療法士の役割について①(個別・集団支援プログラムのアセスメント)
第10回	地域作業療法	地域における作業療法士の役割について②(生活行為向上マネジメント)
第11回	地域作業療法	地域における作業療法士の役割について③(実践の場を知る)
第12回	分野別実践事例	在宅サービスについて(訪問リハ・介護老人保健施設)
第13回	分野別実践事例	在宅サービスについて(通所介護施設)
第14回	分野別実践事例	地域作業療法実践事例について(高齢期分野:認知症への作業療法)
第15回	総合理解	まとめ、国家試験解説

評価方法	定期試験において60点以上を合格とし、履修を認定する
教科書	医学書院『標準作業療法学 地域作業療法学 第3版』小川恵子他
参考書	

作業療法学科	3学年	前期	単位数	1	時間数	30
科目名	生活環境論		授業形態	講義/演習	使用教室	OT3
講師	高山 翔平	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、福祉用具や住宅改修に関わった経験があり、その経験を授業に反映している。			

教育目標	1.生活環境という概念の理解と留意点を理解する 2.生活環境学の関連法規を理解する 3.住宅整備・福祉用具・自助具の目的・使用法を理解しADLへ繋げていく
------	---

回	主題	内容
第1回	オリエンテーション	導入・生活環境学の総論
第2回	生活環境について	生活環境整備の留意点について
第3回	関連法規について	バリアフリーの関連諸制度について
第4回	関連法規について	住環境設備の意義
第5回	福祉用具について	福祉用具と住宅改修の概要について
第6回	福祉用具について	福祉用具について(車椅子と車椅子フィッティング)
第7回	福祉用具について	福祉用具について(移動・移乗用具)
第8回	福祉用具について	福祉用具について(生活自助具)
第9回	住環境整備について	住環境整備について(玄関・廊下・トイレ)
第10回	住環境整備について	住環境整備について(洗面所・浴室・寝室・台所)
第11回	介護給付サービスについて	症例を通して介護給付について考える(グループワーク)
第12回	介護給付サービスについて	症例を通して介護給付について考える(グループワーク)
第13回	報告会	介護給付についての報告会
第14回	報告会	介護給付についての報告会
第15回	総合理解	まとめ、国家試験解説

評価方法	提出物・発表を2割、定期試験を8割とし、総合的で60点以上を合格とし、履修を認定する
教科書	神陵文庫『理学療法学テキスト 生活環境論』千住秀明
参考書	協同医書出版社『作業療法学全集 作業療法技術学2 福祉用具に使い方・住環境整備』福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト

作業療法学科	3学年	後期	単位数	1	時間数	45
科目名	臨床作業療法		授業形態	実習	使用教室	OT3・手工芸室
講師	高山翔平	実務経験有	作業療法士として医療施設で臨床経験があり、その経験を授業に活用している。			

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的なCognitive skill(認知スキル)を身に付ける。</li> <li>多くの情報から要点を整理し問題点を抽出できる。</li> <li>セラピストとしての実践的な知識の使い方・思考過程を学ぶ。</li> <li>対象者の障害の程度を明確にし、状況を正しく全体的に把握する力を身に付ける。</li> <li>評価で得られた情報を的確に表現(客観性のある記録)する能力を養う。</li> <li>実践的なMotor skill(精神運動スキル)・Social skill(社会スキル)を経験する。</li> </ul>
------	--

回	主題	内容
第1回	情報収集 観察、面接	担当症例紹介、情報収集、見学 ケースレポート作成・提出
第2回		
第3回	評価実習(臨床)	模倣(検査測定)、情報収集 ケースレポート作成・提出
第4回		
第5回	評価実習(臨床)	模倣(検査測定)、情報収集 ケースレポート作成・提出
第6回		
第7回	症例検討①(身障)	模倣(検査測定)、情報収集 ケースレポート作成・提出
第8回		
第9回	症例検討②(身障)	検査測定、情報収集 ケースレポート作成・提出 レジюме作成
第10回		
第11回	症例検討③(身障)	レジюме提出、症例報告
第12回		
第13回	症例検討①(精神)	症例提示 症例レポート作成「レポートの形式と情報収集」
第14回		
第15回	症例検討②(精神)	症例評価① 症例レポート作成「作業療法評価」
第16回		
第17回	症例検討③(精神)	症例評価② 症例レポート作成「ICFと焦点化①」
第18回		
第19回	症例検討④(精神)	症例評価③ 症例レポート作成「ICFと焦点化②」
第20回		
第21回	症例検討⑤(精神)	症例評価④ 症例レポート作成「プログラムと考察」
第22回		
第23回	症例検討⑥(精神)	症例検討会

評価方法	<p>&lt;身障&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回ケースレポートを提出</li> <li>2. 報告会用のレジюмеを作成し臨床的思考の整理をする。</li> <li>3. 報告後、フィードバックをもらい、まとめる。</li> </ol> <p>&lt;精神&gt;</p> <p>症例評価発表及びプログラム・考察により評価判定する。</p> <p>&lt;身障&gt;&lt;精神&gt;の評価を合わせ、総合的に評価し、100点満点の60点以上を合格とする。</p>
教科書	<p>&lt;身障&gt;</p> <p>標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 リハビリテーション基礎評価学 第1班 羊土社</p> <p>&lt;精神&gt;</p> <p>ゴールドマスター精神障害作業療法第3版 標準理学療法学・作業療法学精神医学 第4版増補版 作業療法学全書 精神障害</p>
参考書	

作成日：令和6年4月1日

作業療法学科	3学年	後期	単位数	4	時間数	180
科目名	短期臨床実習		授業形態	実習	使用教室	—
講師	石川貴史	実務経験有	作業療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			

教育目標	<p>本学院の教育方針である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人立の強みを生かした「高い専門性」</li> <li>・医療人にふさわしい人格形成を目指した「広い社会性」</li> <li>・社会から求められる医療人の輩出の3点をもとに、臨床教育者(以下CE)による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship: 以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。</li> </ul> <p>&lt;短期臨床実習の教育目標&gt;</p> <p>CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての基本的な資質を高め、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」のスキルを修得する。</p>
------	---

内容	
実習施設:	九州県内を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設
実習期間:	4週間
実習形態:	CEの監督の下、診療参加型臨床実習(CCS)を通してCEと一緒に考え、一緒に行動し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習する。 教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。
実習の進め方:	学生には臨床実習要綱を配布し、事前にオリエンテーション実施。 実習施設には臨床教育者会議にて要綱の説明、実習に関する議題をもとに会議を実施。
	<p>実習においては『助手として診療チームに参加し、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルを育成する』というCCSの概念を通して、学生が多くの臨床的経験を積み、行動変容を引き出す機会となるよう実施する。</p> <p>臨床技能を修得するために「見学—模倣—実施」という診療参加過程での実践指導を基盤にし、対象者における必要な情報・CEの考え方や方針を知り、共有するところから始め、その上で実習チェックリストにある臨床技能項目を理解し、実施可能な項目について計画的に実施していく。</p> <p>実習開始前に臨床で必要とされる基本的な態度、技能が身についているかを判定するためにOSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。</p> <p>実習終了後はセラピストとしての実践的な知識の使い方・思考過程など、対象者を通して得られた「認知スキル」を整理し、報告するために実習報告会を実施する。</p>
実習課題:	実習中は「デイリーノート」、「ケースノート」を課題とし、実習中に得た臨床的思考や知識など自己能力を確認するための資料集となる「ポートフォリオ」を作成する。 実習終了後は実習報告会、そのための準備としてレジュメ・スライドの作成を行う。

評価方法	実習内容 7割(出席・社会スキル・実習報告会)、OSCE 3割を基に、総合的に判定する。 総合判定結果において6割以上を合格とする。 (履修すべき実習の日数の5分の4に満たない場合は、当該実習の単位認定を行わない。)
教科書	規定なし
参考書	3年次までに使用した教科書

作業療法学科	4学年	通期	単位数	8	時間数	360時間
科目名	長期臨床実習Ⅰ		授業形態	実習	使用教室	なし
講師	津留 寄衣里子	実務経験有	作業療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			

教育目標	<p>本学院の教育方針である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人立の強みを生かした「高い専門性」</li> <li>・医療人にふさわしい人格形成を目指した「広い社会性」</li> <li>・社会から求められる医療人の輩出の3点をもとに、臨床教育者(以下CE)による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship:以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。</li> </ul> <p>&lt;長期臨床実習Ⅰの教育目標&gt;</p> <p>CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての倫理観や基本的態度を身に付け、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」から「実施レベル」のスキルを修得する。</p>
------	---

内容	<p>実習施設：九州県内を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設</p> <p>実習期間：8週間</p> <p>実習形態：CEの監督の下、診療参加型臨床実習(CCS)を通してCEと一緒に考え、一緒に行動し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習する。 教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。 臨床実習を通して訪問または通所リハビリテーションに関する実習を40時間以上行う。</p> <p>実習の進め方：学生には臨床実習要綱を配布し、事前にオリエンテーション実施。 実習施設には臨床教育者会議にて要綱の説明、実習に関する議題をもとに会議を実施。</p> <p>実習においては『助手として診療チームに参加し、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルを育成する』というCCSの概念を通して、学生が多くの臨床的経験を積み、行動変容を引き出す機会となるよう実施する。 臨床技能を修得するために「見学－模倣－実施」という診療参加過程での実践指導を基盤にし、対象者における必要な情報・CEの考え方や方針を知り、共有するところから始め、その上で実習チェックリストにある臨床技能項目を理解し、実施可能な項目について計画的に実施していく。 実習開始前に臨床で必要とされる基本的な態度、技能が身についているかを判定するためにOSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。 実習終了後はセラピストとしての実践的な知識の使い方・思考過程など、対象者を通して得られた「認知スキル」を整理し、報告するために実習報告会を実施する。</p> <p>実習課題：実習中は「デイリーノート」、「ケースノート」を課題とし、実習中に得た臨床的思考や知識など自己能力を確認するための資料集となる「ポートフォリオ」を作成する。 実習終了後は実習報告会、そのための準備としてレジュメ・スライドの作成を行う。</p>
----	--

評価方法	<p>実習内容(出席・社会スキル・実習報告会)、OSCEを基に、総合的に判定する。 総合判定結果において6割以上を合格とする。 (履修すべき実習の日数の5分の4に満たない場合は、当該実習の単位認定を行わない。)</p>
教科書	規定なし
参考書	3年次までに使用した教科書 国試の達人

作業療法学科	4学年	通期	単位数	8	時間数	360時間
科目名	長期臨床実習Ⅱ		授業形態	実習	使用教室	なし
講師	津留 寄衣里子	実務経験有	作業療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を臨床実習に反映している。			

教育目標	<p>本学院の教育方針である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人立の強みを生かした「高い専門性」</li> <li>・医療人にふさわしい人格形成を目指した「広い社会性」</li> <li>・社会から求められる医療人の輩出の3点をもとに、臨床教育者(以下CE)による、ある程度の助言・指導のもと理学療法・作業療法を模倣や実施できるようになるために、診療参加型臨床実習(clinical clerkship:以下CCS)を通し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習することとする。</li> </ul> <p>&lt;長期臨床実習Ⅰの教育目標&gt;</p> <p>CEの指導・監視のもと、理学療法士・作業療法士としての倫理観や基本的態度を身に付け、実施を推奨する臨床技能およびCEの臨床的思考過程において「模倣レベル」から「実施レベル」のスキルを修得する。</p>
------	---

内容	<p>実習施設：九州県内を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設</p> <p>実習期間：8週間</p> <p>実習形態：CEの監督の下、診療参加型臨床実習(CCS)を通してCEと一緒に考え、一緒に行動し、基本的臨床技術・技能を修得し、臨床的思考過程を学習する。 教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。 臨床実習を通して訪問または通所リハビリテーションに関する実習を40時間以上行う。</p> <p>実習の進め方：学生には臨床実習要綱を配布し、事前にオリエンテーション実施。 実習施設には臨床教育者会議にて要綱の説明、実習に関する議題をもとに会議を実施。</p> <p>実習においては『助手として診療チームに参加し、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルを育成する』というCCSの概念を通して、学生が多くの臨床的経験を積み、行動変容を引き出す機会となるよう実施する。 臨床技能を修得するために「見学－模倣－実施」という診療参加過程での実践指導を基盤にし、対象者における必要な情報・CEの考え方や方針を知り、共有するところから始め、その上で実習チェックリストにある臨床技能項目を理解し、実施可能な項目について計画的に実施していく。 実習開始前に臨床で必要とされる基本的な態度、技能が身についているかを判定するためにOSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。 実習終了後はセラピストとしての実践的な知識の使い方・思考過程など、対象者を通して得られた「認知スキル」を整理し、報告するために実習報告会を実施する。</p> <p>実習課題：実習中は「デイリーノート」、「ケースノート」を課題とし、実習中に得た臨床的思考や知識など自己能力を確認するための資料集となる「ポートフォリオ」を作成する。 実習終了後は実習報告会、そのための準備としてレジュメ・スライドの作成を行う。</p>
----	--

評価方法	<p>実習内容(出席・社会スキル・実習報告会)、OSCEを基に、総合的に判定する。 総合判定結果において6割以上を合格とする。 (履修すべき実習の日数の5分の4に満たない場合は、当該実習の単位認定を行わない。)</p>
教科書	規定なし
参考書	3年次までに使用した教科書 国試の達人

作業療法学科	4学年	通期	単位数	8	時間数	120時間
科目名	作業療法セミナー		授業形態	講義	使用教室	OT4・手工芸室 金工木工室
講師	津留寄衣里子	実務経験有	作業療法士として医療施設に勤務経験があり、その経験を各分野に反映している。			
教育目標	4年間の知識の再確認と国家試験に必要な知識の習得。					
回	主題	内容				
第1回	第3回分野別学習(運動器系)	グループ学習①				
第2回	第3回分野別学習(運動器系)	グループ学習②				
第3回	第3回分野別模試	解剖・運動・生理学(運動器系)				
第4回	第3回分野別学習(運動器系)	試験後復習期間				
第5回	第3回分野別学習(運動器系)	試験後復習期間				
第6回	3科目試験	第1.2.3回分野別試験の総括試験				
第7回	3科目試験	第1.2.3回分野別試験の総括試験				
第8回	第1回分野別学習(病理・内科)	グループ学習①				
第9回	第1回分野別学習(病理・内科)	グループ学習②				
第10回	第1回分野別模	(臨床医学)病理・内科学				
第11回	第1回分野別学習(病理・内科)	試験後復習期間				
第12回	第1回分野別学習(病理・内科)	試験後復習期間				
第13回	第2回分野別学習(整形外科)	グループ学習①				
第14回	第2回分野別学習(整形外科)	グループ学習②				
第15回	第2回分野別模試	(臨床医学)整形外科学				
第16回	第2回分野別学習(整形外科)	試験後復習期間				
第17回	第2回分野別学習(整形外科)	試験後復習期間				
第18回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	グループ学習①				
第19回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	グループ学習②				
第20回	第3回分野別模試	(臨床医学)神経内科・人間発達学				
第21回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	試験後復習期間				
第22回	第3回分野別学習(神経内科・発達)	試験後復習期間				
第23回	第4回分野別学習(心理・精神)	グループ学習①				
第24回	第4回分野別学習(心理・精神)	グループ学習②				
第25回	第4回分野別模試	(臨床医学)臨床心理・精神医学				
第26回	第4回分野別学習(心理・精神)	試験後復習期間				
第27回	第4回分野別学習(心理・精神)	試験後復習期間				
第23回	第5回分野別学習(管理学)	グループ学習①				
第24回	第5回分野別学習(管理学)	グループ学習②				
第25回	第5回分野別模試	理学療法管理学				
第26回	第5回分野別学習(管理学)	試験後復習期間				
第27回	第5回分野別学習(管理学)	試験後復習期間				



第28回	第1回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第29回	第1回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第30回	第1回分野別学習(専門①)	グループ学習①
第31回	第1回分野別学習(専門①)	グループ学習②
第32回	第1回分野別模試	作業療法 専門①
第33回	第2回分野別学習(専門②)	グループ学習①
第34回	第2回分野別学習(専門②)	グループ学習②
第35回	第2回分野別模試	作業療法 専門②
第36回	第3回分野別学習(専門③)	グループ学習①
第37回	第3回分野別学習(専門③)	グループ学習②
第38回	第3回分野別模試	作業療法 専門③
第39回	第4回分野別学習(専門④)	グループ学習①
第40回	第4回分野別学習(専門④)	グループ学習②
第41回	第4回分野別模試	作業療法 専門④
第42回	第5回分野別学習(専門⑤)	グループ学習①
第43回	第5回分野別学習(専門⑤)	グループ学習②
第44回	第5回分野別模試	作業療法 専門⑤
第45回	第6回分野別学習(専門⑥)	グループ学習①
第46回	第6回分野別学習(専門⑥)	グループ学習②
第47回	第6回分野別模試	作業療法 専門⑥
第48回	第6回分野別学習(専門⑥)	試験後復習期間
第49回	第6回分野別学習(専門⑥)	試験後復習期間
第50回	集中学習期間	グループ学習・第2回医歯薬模試
第51回	第2回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第52回	第2回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第53回	集中学習期間	グループ学習・三輪模試
第54回	第3回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第55回	第3回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第56回	集中学習期間	グループ学習・第3回医歯薬模試
第57回	第4回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第58回	第4回 卒業試験	理学療法・作業療法専門・共通分野 卒業試験
第59回	集中学習期間	グループ学習・国家試験直前模試①
第60回	集中学習期間	グループ学習・国家試験直前模試②・国家試験前オリエンテーション
評価方法	卒業試験(全4回)の成績にて60点以上を単位認定とする。 1次判定:第1.2回卒業試験成績 2次判定:第3.4回卒業試験成績	
教科書	・国試の達人 運動解剖生理学編・臨床医学編・作業療法編、IPEC ・国家試験必修ポイント 基礎医学・臨床医学・基礎OT学・障害別OT学、医歯薬出版株式会社	
参考書	・1.2.3年次教科書 ・各授業授業資料	